表現活動指導法の授業アンケート調査結果における考察（2）

～保育者養成の観点から～

坂　内　寿　子
村　木　　薫

はじめに

筆者らが担当する表現活動指導法の授業は、「ミュージカルの制作と上演」が中心的な内容となっている。本授業は脚本づくりからロールプレーイングを通じた役柄づくり、また舞台全体を制作し発表する中で、様々な表現技法の習熟を図り、保育者としての実践的指導力を高めることを目的とした、学生主体のアクティブラーニング型授業である。

本稿は「ミュージカルの制作と上演」を保育者養成の観点から、教育プログラムとしての存在意義・価値を検証するために実施した授業アンケート調査の第二次報告である。

授業アンケート調査は表現活動指導法の履修者を対象に、シラバスに示されている到達目標及び本学が定める学習成果の評価項目を基に 28 の質問項目を設定し、6 段階の評定尺度法調査と自由記述方法を用いて行った。

前稿においては、平成 27 年度及び 28 年度の履修者から得られた回答を項目別に単純集計し、その結果を考察した内容となっている。（平成 29 年 5 月　暁星論叢第 67 号　p 61 ～ 83）

本稿においては、平成 29 年度に行われた第 32 回ミュージカル「ふしぎの国のアリス」の制作を経験した表現活動指導法履修者の回答を新たに加えたものとなっている。3 年分のアンケート調査結果を①ミュージカル制作における係活動（表 1 参照）、②舞台で演ずるキャストにおける個人と集団、③係活動におけるリーダーとリーダー以外、といった 3 種類の集計結果をグラフ化した。前稿の調査結果を踏まえ、キャストにおける個人（一人）役と集団で構成する役との比較、また、所属する係による違いや係のリーダーとしての役割をもつ学生とそれ以外の学生との間に集計結果において差異が見られるか、比較検討を行った。

1　調査の概要

（1）調査日及び回答者数

各年度において、表現活動指導法の最終授業日にアンケート調査を実施した。3 年間の履修者 245 人中、226 人（回収率 92.2%）の回答を得た。

平成 27 年 12 月 22 日：　68 人／ 80 人（85.0%）
平成 28 年　5 月 27 日：　79 人／ 80 人（98.7%）
平成 29 年　5 月 25 日：　79 人／ 85 人（88.2%）
回答者合計：226 人

（2）調査方法

6件法による評定尺度法を用いた質問紙調査及び自由記述

評価段階

⑥非常に当てはまる（6点）　⑤当てはまる（5点）

④やや当てはまる（4点）　③やや当てはまらない（3点）

②当てはまらない（2点）　①全く当てはまらない（1点）

（3）調査項目

・ 1～ 7項目：コミュニケーション能力、協調性、問題解決能力

・ 8～11項目：自主性、責任感

・12～18項目：表現技能

・19～23項目：技能

・24～28項目：態度

（4）調査別人数

① 係活動別

表1　係活動別人数（人）

記録	総監督	文書作成	メイク	会計	打ち上げ式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具	不明	計
9	6	8	11	7	8	11	14	26	48	39	37	2	226

② キャストの人数構成

個人（一人）役　30人　　集団で構成する役　196人　　計　226人

③ 係活動における役割

リーダー　45人　　リーダー以外　177人　　不明　4人　　計　226人

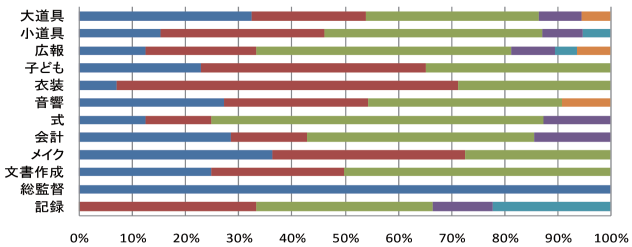
２　調査結果

（１）係活動別比較

対象となる人数は表１のとおりである。

１　制作の過程で自分の意見・アイディアなどを伝えた

図・表　１



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	0%	100%	25%	36%	29%	13%	27%	7%	23%	13%	15%	32%
⑤	33%	0%	25%	36%	14%	13%	27%	64%	42%	21%	31%	22%
④	33%	0%	50%	27%	43%	63%	36%	29%	35%	48%	41%	32%
③	11%	0%	0%	0%	14%	13%	0%	0%	0%	8%	8%	8%
②	22%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	5%	0%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	9%	0%	0%	6%	0%	5%

表２　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	3.78	6.00	4.75	5.09	4.57	4.25	4.55	4.79	4.88	4.10	4.44	4.62
標準偏差	1.13	0.00	0.83	0.79	1.05	0.83	1.37	0.56	0.75	1.23	1.01	1.30

６件法での評価基準はこの設問に対して当てはまると感じていれば、3.5 以上の数値となる。28 の設問に関して同じ評価基準で検討していきたい。

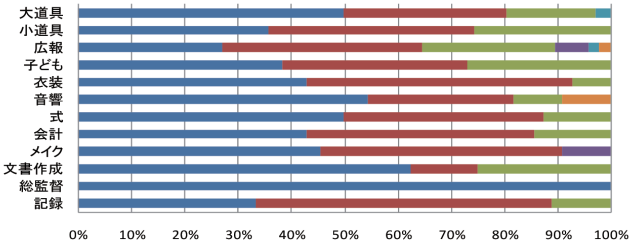
１の設問に対し、それぞれの係活動別の平均を見てみると、総監督が６点、メイク係は５点台と高い数値が出ていたが、他の係は４点台であった。

全体の平均値は 4.65 であった。記録係だけ 3.78 とやや低い数値であった。しかし、ここでの平均値は 3.5 を上回っていることで、係活動の違いにかかわらず、おおむね制作の過程で自分の意見・アイディアなどを伝えたという肯定的な評価であった。

①全く当てはまらないとする否定の回答が音響係、広報係、大道具係に９～５％見られる。

２　話し合う中で他の人の意見（反論も含めて）を理解しようと努めた

図・表　２



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	33%	100%	63%	45%	43%	50%	55%	43%	38%	27%	36%	50%
⑤	56%	0%	13%	45%	43%	38%	27%	50%	35%	38%	38%	31%
④	11%	0%	25%	0%	14%	13%	9%	7%	27%	25%	26%	17%
③	0%	0%	0%	9%	0%	0%	0%	0%	0%	6%	0%	0%
②	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	3%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	9%	0%	0%	2%	0%	0%

表３　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	5.22	6.00	5.38	5.27	5.29	5.38	5.09	5.36	5.12	4.75	5.10	5.25
標準偏差	0.63	0.00	0.86	0.86	0.70	0.70	1.44	0.61	0.80	1.11	0.78	0.92

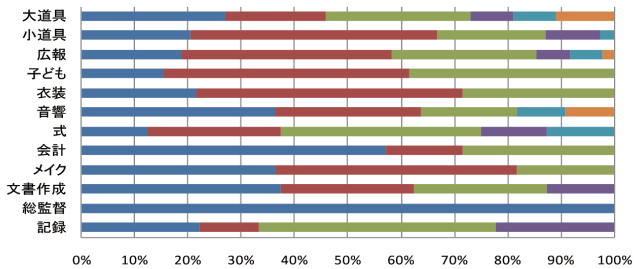
２の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、総監督が６点、他の 10 の係活動では５点台であった。また、全体の平均値は 5.27 と高い数値であった。

しかし、この平均値を見る限りは、係活動の違いに関係なく、話し合う中で他の人の意見（反論も含めて）を理解しようと努めたことに対して肯定的な評価であった。

①全く当てはまらないとする否定の回答が音響係、広報係に９～２％見られる。

3　意見を交わし議論を行った

図・表 3



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	22%	100%	38%	36%	57%	13%	36%	21%	15%	19%	21%	27%
⑤	11%	0%	25%	45%	14%	25%	27%	50%	46%	40%	46%	19%
④	44%	0%	25%	18%	29%	38%	18%	29%	38%	27%	21%	27%
③	22%	0%	13%	0%	0%	13%	0%	0%	0%	6%	10%	8%
②	0%	0%	0%	0%	0%	13%	9%	0%	0%	6%	3%	8%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	9%	0%	0%	2%	0%	11%

表 4　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	4.33	6.00	4.88	5.18	5.29	4.13	4.55	4.93	4.77	4.52	4.72	4.16
標準偏差	1.05	0.00	1.05	0.72	0.88	1.17	1.62	0.70	0.70	1.17	0.99	1.62

3 の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、総監督が 6 点、メイク係、会計係が 5 点台、他の 9 の係が 4 点台の結果であった。

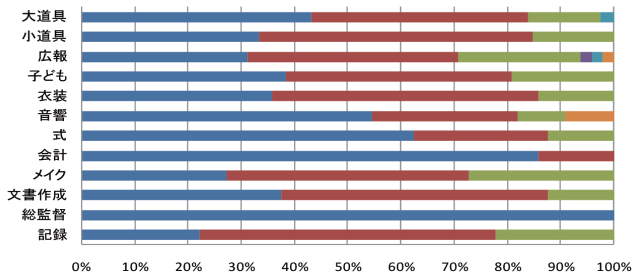
また、全体の平均値は 4.79 であった。総監督がお互いにまた、他のキャストと意見を交わし、議論を行っていることが読み取れる。

しかし、平均値を見る限り、このミュージカルの製作過程において、係活動の違いにかかわらず、おおむね意見を交わし、議論を行ったという実感をもっていることが推察できる。

①全く当てはまらないとする否定の回答が大道具係、音響係、広報係に 11 ～ 2 % 見られる。

4　議論した結果について受け入れ、行動した

図・表 4



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	22%	100%	38%	27%	86%	63%	55%	36%	38%	31%	33%	43%
⑤	56%	0%	50%	45%	14%	25%	27%	50%	42%	40%	51%	41%
④	22%	0%	13%	27%	0%	13%	9%	14%	19%	23%	15%	14%
③	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	0%
②	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	3%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	9%	0%	0%	2%	0%	0%

表 5　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	5.00	6.00	5.25	5.00	5.86	5.50	5.09	5.21	5.19	4.90	5.18	5.22
標準偏差	0.67	0.00	0.66	0.74	0.35	0.71	1.44	0.67	0.73	1.07	0.67	0.87

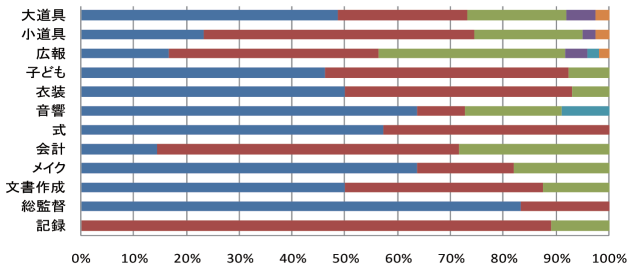
4 の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、総監督が 6 点、広報係が 4.90 点、他の係はすべて 5 点台であった。また全体の平均値は 5.28 と高い数値であった。

ミュージカル制作の過程において係活動の違いにかかわらず、議論した結果を受け入れ、行動したという実感を多くの学生が持っていることが推察できる。

①全く当てはまらないとする否定の回答が音響係、広報係に 9 ～ 2 % 見られる。

5　練習や係活動を通じて協調性を身につけることができた

図・表 5



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	0%	83%	50%	64%	14%	57%	64%	50%	46%	17%	23%	49%
⑤	89%	17%	38%	18%	57%	43%	9%	43%	46%	40%	51%	24%
④	11%	0%	13%	18%	29%	0%	18%	7%	8%	35%	21%	19%
③	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	3%	5%
②	0%	0%	0%	0%	0%	0%	9%	0%	0%	2%	0%	0%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	3%	3%

5の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、4点台が5つの係活動から、5点台がその他の7つの係活動から表れている。全体の平均値は5.21であった。

ミュージカル制作の過程において、係活動の違いにかかわらず、練習や係活動を通じて協調性を身につけたことを実感している学生が多くいることが推察できる。

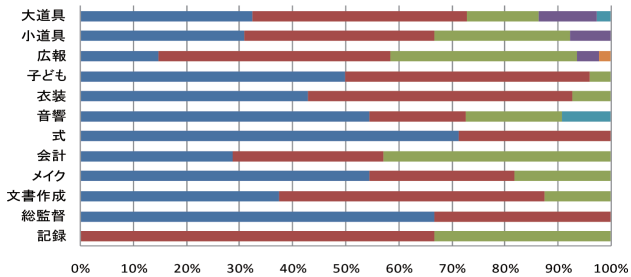
①全く当てはまらないとする否定の回答が大道具係、小道具係、広報係に3～2％見られる。

表6　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	4.89	5.83	5.38	5.45	4.86	5.57	5.18	5.43	5.38	4.58	4.87	5.08
標準偏差	0.31	0.37	0.70	0.78	0.64	0.49	1.27	O,62	0.62	1.02	0.97	1.15

6　練習や係活動を通じてコミュニケーション能力を身につけることができた

図・表 6



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	0%	67%	38%	55%	29%	71%	55%	43%	50%	15%	31%	32%
⑤	67%	33%	50%	27%	29%	29%	18%	50%	46%	44%	36%	41%
④	33%	0%	13%	18%	43%	0%	18%	7%	4%	35%	26%	14%
③	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	8%	11%
②	0%	0%	0%	0%	0%	0%	9%	0%	0%	0%	0%	3%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	0%

6の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、4点台が5つの係活動から、5点台がその他の7種類の係活動から表れている。全体の平均値は5.20であった。

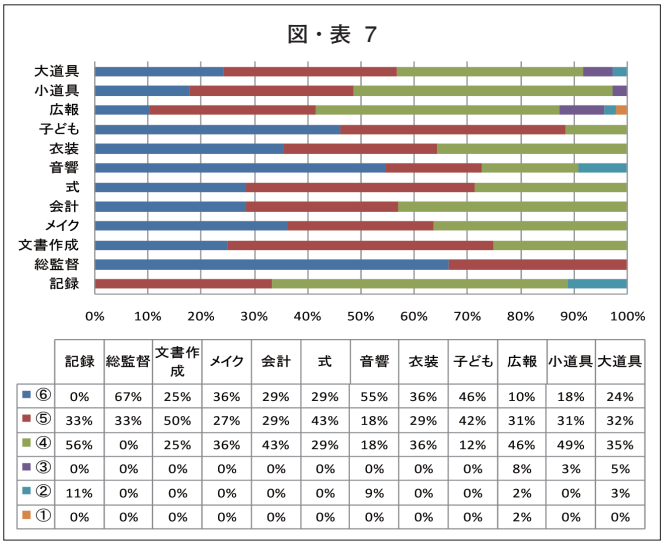
ミュージカル制作の過程において、係活動の違いにかかわらず、練習や係活動を通じてコミュニケーション能力を身につける事ができたという実感を多くの学生が持っていることが推察できる。

①全く当てはまらないとする否定の回答が広報係に2％見られる。

表7　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	4.67	5.67	5.25	5.37	4.86	5.71	5.09	5.36	5.46	4.63	4.90	4.89
標準偏差	0.47	0.47	0.66	0.77	0.83	0.45	1.24	0.61	0.57	0.93	0.93	1.06

7　練習や係活動を通じて問題解決能力を身につけることができた



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	0%	67%	25%	36%	29%	29%	55%	36%	46%	10%	18%	24%
⑤	33%	33%	50%	27%	29%	43%	18%	29%	42%	31%	31%	32%
④	56%	0%	25%	36%	43%	29%	18%	36%	12%	46%	49%	35%
③	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	8%	3%	5%
②	11%	0%	0%	0%	0%	0%	9%	0%	0%	2%	0%	3%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	0%

7の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、4点台が5つの係活動から、5点台がその他の7種類の係活動から示されている。全体の平均値は4.94であった。

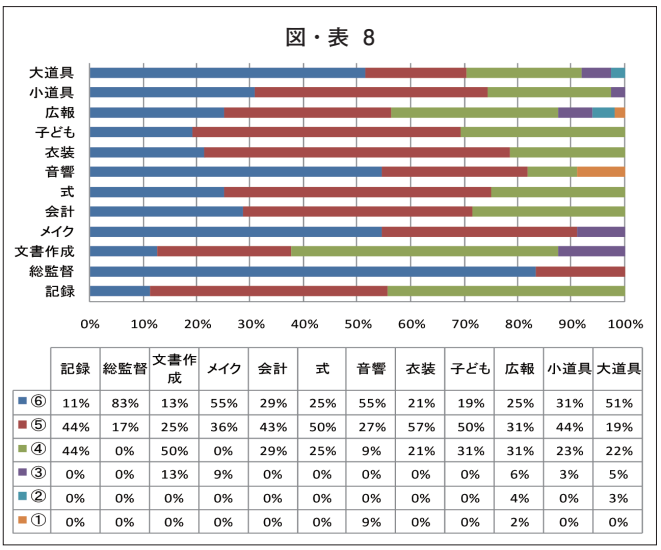
記録係が4.11という数値であったが、おおむね、係活動の違いにかかわらず、練習や係活動を通じて問題解決能力を身につける事ができたという肯定的な評価であった。

①全く当てはまらないとする否定の回答が広報係に2％見られる。

表8　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	4.11	5.67	5.00	5.00	4.86	5.00	5.09	5.36	5.46	4.33	4.64	4.70
標準偏差	0.87	0.47	0.71	0.85	0.83	0.76	1.24	0.61	0.57	0.99	0.80	0.98

8　与えられた授業時間を意識して積極的に制作活動に取り組んだ



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	11%	83%	13%	55%	29%	25%	55%	21%	19%	25%	31%	51%
⑤	44%	17%	25%	36%	43%	50%	27%	57%	50%	31%	44%	19%
④	44%	0%	50%	0%	29%	25%	9%	21%	31%	31%	23%	22%
③	0%	0%	13%	9%	0%	0%	0%	0%	0%	6%	3%	5%
②	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	0%	3%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	9%	0%	0%	2%	0%	0%

8の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、4点台が4つの係活動から、5点台がその他の8種類の係活動から示されている。全体の平均値は5.03であった。

おおむね、係活動の違いにかかわらず、与えられた授業時間を意識して積極的に制作活動に取り組んだという実感を持っていることが推察できる。

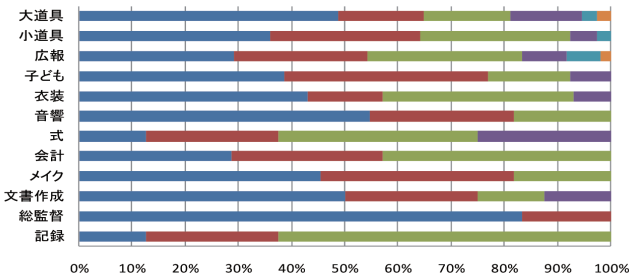
①全く当てはまらないとする否定の回答が音響係、広報係に9～2％見られる。

表9　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	4.67	5.83	4.83	5.36	5.00	5.00	5.09	5.00	4.88	4.60	5.03	5.11
標準偏差	0.67	0.37	0.86	0.88	0.76	0.71	1.44	0.65	0.70	1.17	0.80	1.09

９　授業時間以外での自主的活動を積極的に行った

図・表 9



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	13%	83%	50%	45%	29%	13%	55%	43%	38%	29%	36%	49%
⑤	25%	17%	25%	36%	29%	25%	27%	14%	38%	25%	28%	16%
④	63%	0%	13%	18%	43%	38%	18%	36%	15%	29%	28%	16%
③	0%	0%	13%	0%	0%	25%	0%	7%	8%	8%	5%	14%
②	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	6%	3%	3%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	3%

９の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、４点台が７つの係活動から、５点台がその他の５種類の係活動から示されている。全体の平均値は 4.96 であった。

おおむね、係活動の違いにかかわらず、授業時間以外での自主的活動を積極的に行ったという肯定的な評価であった。

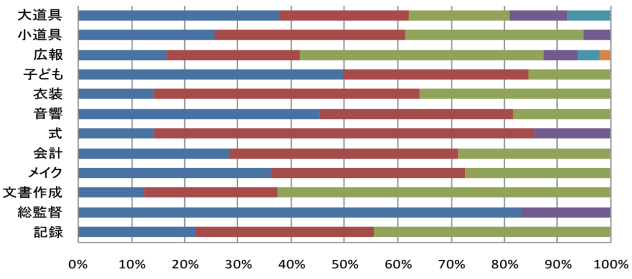
①全く当てはまらないとする否定の回答が大道具係、広報係に３～２％見られる。

表 10　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	4.50	5.83	5.13	5.27	4.86	4.25	5.36	4.93	5.08	4.56	4.90	4.86
標準偏差	0.71	0.37	1.05	0.75	0.83	0.97	0.77	1.03	0.92	1.27	1.03	1.36

10　練習や係活動を通じて自主性を身につけることができた

図・表 10



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	22%	83%	13%	36%	29%	14%	45%	14%	50%	17%	26%	38%
⑤	33%	0%	25%	36%	43%	71%	36%	50%	35%	25%	36%	24%
④	44%	0%	63%	27%	29%	0%	18%	36%	15%	46%	33%	19%
③	0%	17%	0%	0%	0%	14%	0%	0%	0%	6%	5%	11%
②	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	0%	8%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	0%

10 の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、４点台が７つの係活動から、５点台がその他の５種類の係活動から表れている。全体の平均値は 4.92 であった。

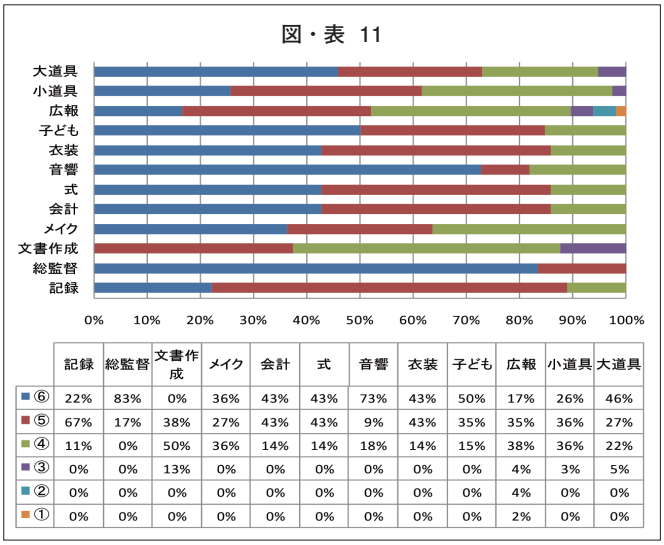
おおむね、係活動の違いにかかわらず、練習や係活動を通じて自主性を身につけることできたという実感を持っていることが推察できる。

①全く当てはまらないとする否定の回答が広報係に２％見られる。

表 11　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	4.78	5.50	4.50	5.09	5.00	4.86	5.27	4.79	5.35	4.38	4.82	4.73
標準偏差	0.79	1.12	0.71	0.79	0.76	0.83	0.75	0.67	0.73	1.09	0.87	1.29

11　練習や係活動を通じて責任感を身につけることができた



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	22%	83%	0%	36%	43%	43%	73%	43%	50%	17%	26%	46%
⑤	67%	17%	38%	27%	43%	43%	9%	43%	35%	35%	36%	27%
④	11%	0%	50%	36%	14%	14%	18%	14%	15%	38%	36%	22%
③	0%	0%	13%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	3%	5%
②	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	0%	0%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	0%

11の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、4点台が3つの係活動から、5点台がその他の9種類の係活動から示されている。全体の平均値は5.12であった。

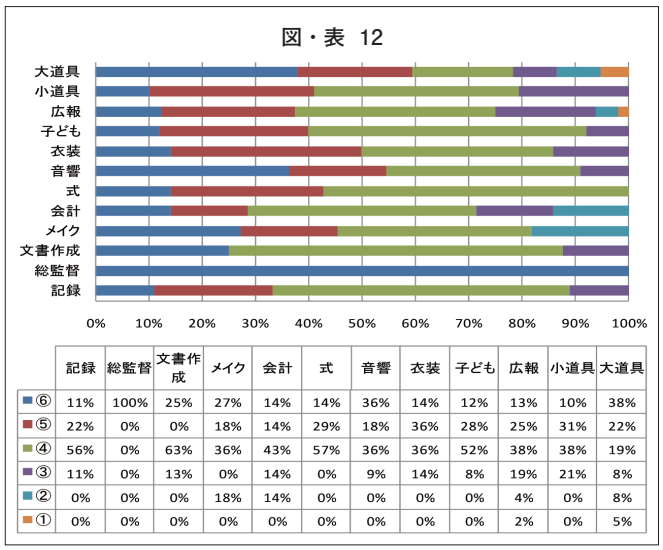
広報係が4.11という数値であるが、おおむね、係活動の違いにかかわらず、練習や係活動を通じて責任感を身につけることできたという肯定的な評価であった。

①全く当てはまらないとする否定の回答が広報係に2％見られる。

表12　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	5.11	5.83	4.25	5.00	5.29	5.29	5.55	5.29	5.35	4.50	4.85	5.14
標準偏差	0.57	0.37	0.66	0.85	0.70	0.70	0.78	0.70	0.73	1.08	0.83	0.93

12　演じる中で自分の特技（得意分野）を活かすことができた



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	11%	100%	25%	27%	14%	14%	36%	14%	12%	13%	10%	38%
⑤	22%	0%	0%	18%	14%	29%	18%	36%	28%	25%	31%	22%
④	56%	0%	63%	36%	43%	57%	36%	36%	52%	38%	38%	19%
③	11%	0%	13%	0%	14%	0%	9%	14%	8%	19%	21%	8%
②	0%	0%	0%	18%	14%	0%	0%	0%	0%	4%	0%	8%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	5%

12の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、4点台の数値が１１の係活動から、総監督が6点の数値であった。全体の平均値は4.52であった。

会計係が4.00という数値であるが、おおむね、係活動の違いにかかわらず、演じる中で自分の特技（得意分野）を活かすことができたという実感を持っていることが推察できる。

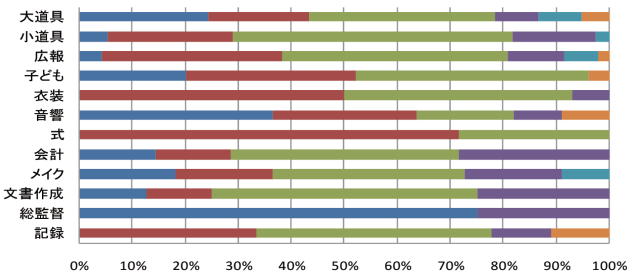
①全く当てはまらないとする否定の回答が大道具係、広報係に５～２％見られる。

表13　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	4.33	6.00	4.38	4.36	4.00	4.57	4.82	4.50	4.27	4.17	4.31	4.57
標準偏差	0.82	0.00	0.99	1.37	1.20	0.73	1.03	0.91	1.16	1.12	0.91	1.52

13　演じる中で自分の苦手（不得意分野）な部分が克服できた

図・表　13



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	0%	75%	13%	18%	14%	0%	36%	0%	20%	4%	5%	24%
⑤	33%	0%	13%	18%	14%	71%	27%	50%	32%	34%	24%	19%
④	44%	0%	50%	36%	43%	29%	18%	43%	44%	43%	53%	35%
③	11%	25%	25%	18%	29%	0%	9%	7%	0%	11%	16%	8%
②	0%	0%	0%	9%	0%	0%	0%	0%	0%	6%	3%	8%
①	11%	0%	0%	0%	0%	0%	9%	0%	4%	2%	0%	5%

表 14　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	3.89	5.25	4.13	4.18	4.14	4.71	4.64	4.43	4.42	4.13	4.13	4.27
標準偏差	1.20	1.30	0.93	1.19	0.99	0.45	1.49	0.62	1.36	1.02	0.83	1.41

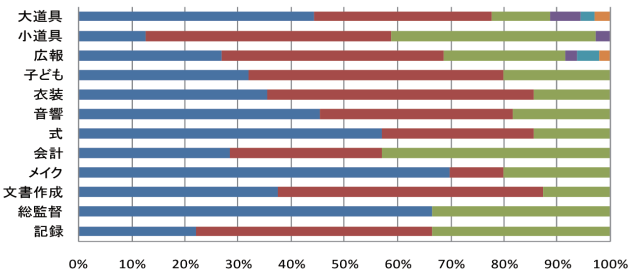
13 の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、総監督の 5.25、記録係の 3.89 を除き、他の係活動の数値はすべて 4 点台であった。全体の平均値は 4.36 であった。

記録係が 3.89 という数値であるが、おおむね、係活動の違いにかかわらず、演じる中で自分の苦手（不得意分野）な部分を克服することができたという肯定的な評価であった。しかし、12. 演じる中で自分の得意分野を活かしたという実感よりも若干低い数値であった。

①全く当てはまらないとする否定の回答が記録係、音響係、大道具係、子ども係、広報係に 11 ～ 2 % 見られる。

14　役柄に応じた表現を身につけることができた

図・表　14



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	22%	67%	38%	70%	29%	57%	45%	36%	32%	27%	13%	44%
⑤	44%	0%	50%	10%	29%	29%	36%	50%	48%	42%	46%	33%
④	33%	33%	13%	20%	43%	14%	18%	14%	20%	23%	38%	11%
③	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	3%	6%
②	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	0%	3%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	3%

表 15　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	4.89	5.33	5.25	5.50	4.86	5.43	5.27	5.21	4.92	4.79	4.69	5.03
標準偏差	0.74	0.94	0.66	0.81	0.83	0.73	0.75	0.67	1.21	1.12	0.72	1.21

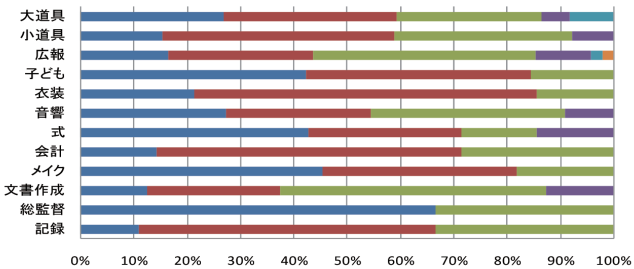
14 の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、4 点台の数値が 5 つの係活動から、5 点台の数値が 7 つの係活動から示された。全体の平均値は 5.10 であった。

おおむね、係活動の違いにかかわらず、演じる中で役柄に応じた表現を身につけることができたという実感を持っていることが推察できる。

①全く当てはまらないとする否定の回答が大道具係、広報係に 3 ～ 2 % 見られる。

15　保育者に必要な表現活動の指導法を身につけることができた

図・表 15



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	11%	67%	13%	45%	14%	43%	27%	21%	42%	17%	15%	27%
⑤	56%	0%	25%	36%	57%	29%	27%	64%	42%	27%	44%	32%
④	33%	33%	50%	18%	29%	14%	36%	14%	15%	42%	33%	27%
③	0%	0%	13%	0%	0%	14%	9%	0%	0%	10%	8%	5%
②	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	8%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	0%

15の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、4点台の数値が6つの係活動から、5点台の数値が6つの係活動から示された。全体の平均値は4.87であった。

おおむね、係活動の違いにかかわらず、ミュージカルの制作を通じて、保育者に必要な表現活動の指導法を身につけることができたという肯定的な評価であった。

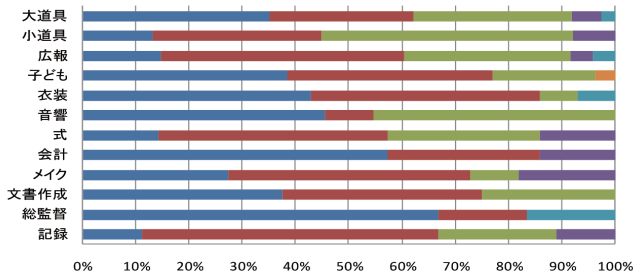
①全く当てはまらないとする否定の回答が広報係に2％見られる。

表16　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	4.78	5.33	4.38	5.27	4.86	5.00	4.73	5.07	5.27	4.40	4.67	4.65
標準偏差	0.63	0.94	0.86	0.75	0.64	1.07	0.96	0.59	0.71	1.08	0.83	1.17

16　保育者となったときに子どもの前で抵抗感なく音楽的表現（歌うこと等）に自信がついた

図・表 16



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	11%	67%	38%	27%	57%	14%	45%	43%	38%	15%	13%	35%
⑤	56%	17%	38%	45%	29%	43%	9%	43%	38%	46%	32%	27%
④	22%	0%	25%	9%	0%	29%	45%	7%	19%	31%	47%	30%
③	11%	0%	0%	18%	14%	14%	0%	0%	0%	4%	8%	5%
②	0%	17%	0%	0%	0%	0%	0%	7%	0%	4%	0%	3%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	0%	0%	0%

16の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、4点台の数値が6つの係活動から、5点台の数値が6つの係活動から示された。全体の平均値は4.90であった。

おおむね、係活動の違いにかかわらず、ミュージカルの制作を通じて、保育者となったときに子どもの前で抵抗感なく音楽的表現（歌うこと等）に自信がついたという実感を持っていることが推察できる。

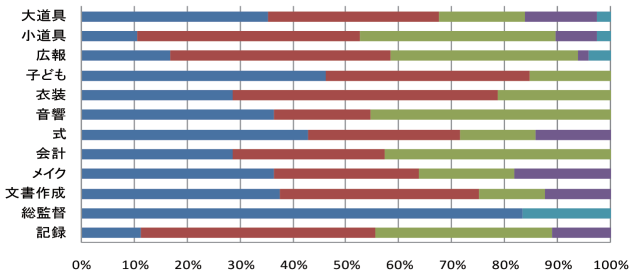
①全く当てはまらないとする否定の回答が子ども係に4％見られる。

表17　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	4.67	5.17	5.13	4.82	5.29	4.57	5.00	5.14	5.04	4.63	4.46	4.86
標準偏差	0.82	1.46	0.78	1.03	1.03	0.90	0.95	1.06	1.09	0.93	0.79	1.04

17　保育者となったときに子どもの前で抵抗感なく身体的表現（ダンス・感情表現等）に自信がついた

図・表　17



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	11%	83%	38%	36%	29%	43%	36%	29%	46%	17%	11%	35%
⑤	44%	0%	38%	27%	29%	29%	18%	50%	38%	42%	42%	32%
④	33%	0%	13%	18%	43%	14%	45%	21%	15%	35%	37%	16%
③	11%	0%	13%	18%	0%	14%	0%	0%	0%	2%	8%	14%
②	0%	17%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	3%	3%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

17 の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、4 点台の数値が 7 つの係活動から、5 点台の数値が 5 つの係活動から示された。全体の平均値は 4.90 であった。

おおむね、係活動の違いにかかわらず、ミュージカルの制作を通じて、保育者となったときに子どもの前で抵抗感なく身体的表現（ダンス・感情表現等）に自信がついたという肯定的な評価であった。

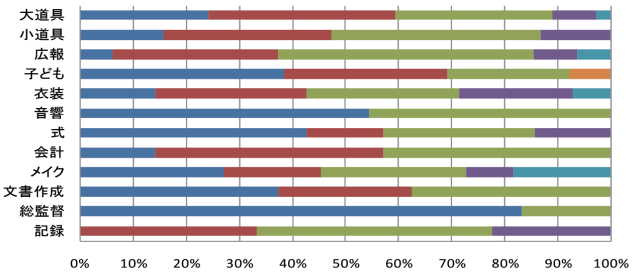
①全く当てはまらないとする否定の回答は見られない。

表 18　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	4.56	5.33	5.00	4.82	4.86	5.00	4.91	5.07	5.31	4.65	4.46	4.84
標準偏差	0.83	1.49	1.00	1.11	0.83	1.07	0.90	0.70	0.72	0.92	0.86	1.13

18　保育者となったときに子どもの前で抵抗感なく造形的表現（描く・作る等）に自信がついた

図・表　18



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	0%	83%	38%	27%	14%	43%	55%	14%	38%	6%	16%	24%
⑤	33%	0%	25%	18%	43%	14%	0%	29%	31%	31%	32%	35%
④	44%	17%	38%	27%	43%	29%	45%	29%	23%	48%	39%	30%
③	22%	0%	0%	9%	0%	14%	0%	21%	0%	8%	13%	8%
②	0%	0%	0%	18%	0%	0%	0%	7%	0%	6%	0%	3%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	8%	0%	0%	0%

18 の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、4 点台の数値が 9 つの係活動から、5 点台の数値が 3 つの係活動から示された。全体の平均値は 4.68 であった。

音楽的表現や身体的表現に比べて数値が若干低いが、その理由として、実際に大道具や小道具制作にかかわる学生の数が限られていることが考えられる。また衣装制作も自分たちで作るのではなく、ネット販売で衣装を用意する学生がここ数年増加していることなども原因として考えられる。

おおむね、係活動の違いにかかわらず、ミュージカルの制作を通じて、保育者となったときに子どもの前で抵抗感なく造形的表現（描く・作る等）に自信がついたという実感を持っていることが推察できる。

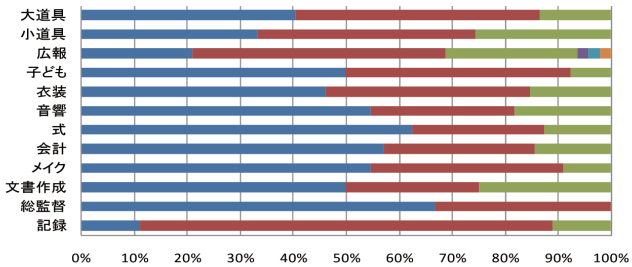
①全く当てはまらないとする否定の回答が子ども係に 8 % 見られる。

表 19　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	4.11	5.67	5.00	4.27	4.71	4.86	5.09	4.21	4.85	4.23	4.51	4.70
標準偏差	0.74	0.75	0.87	1.42	0.70	1.12	1.00	1.15	1.35	0.92	0.92	1.01

19　他者のアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができるようになった

図・表 19



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	11%	67%	50%	55%	57%	63%	55%	46%	50%	21%	33%	41%
⑤	78%	33%	25%	36%	29%	25%	27%	38%	42%	48%	41%	46%
④	11%	0%	25%	9%	14%	13%	18%	15%	8%	25%	26%	14%
③	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	0%
②	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	0%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	0%

19 の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、4 点台の数値が広報係の 4.77 で他の係は全て 5 点台であった。総監督は 5.67 と高い数値であった。全体の平均値も 5.29 という高い数値であった。

係活動の違いにかかわらず、ミュージカルの制作を通じて、他者のアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができるようになったという肯定的な評価であった。

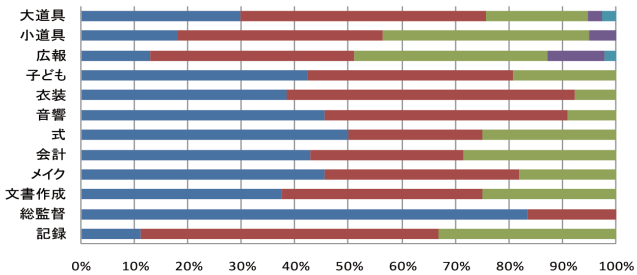
①全く当てはまらないとする否定の回答が広報係に 2 % 見られる。

表 20　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	5.00	5.67	5.25	5.45	5.43	5.50	5.36	5.31	5.42	4.77	5.08	5.27
標準偏差	0.47	0.47	0.83	0.66	0.73	0.71	0.77	0.72	0.63	1.00	0.76	0.68

20　他者と共同して活動を企画・運営・展開することができるようになった

図・表 20



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	11%	83%	38%	45%	43%	50%	45%	38%	42%	13%	18%	30%
⑤	56%	17%	38%	36%	29%	25%	45%	54%	38%	38%	38%	46%
④	33%	0%	25%	18%	29%	25%	9%	8%	19%	36%	38%	19%
③	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	11%	5%	3%
②	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	3%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

20 の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、4 点台の数値が 4 つの係活動から、5 点台の数値が 8 つの係活動から示された。総監督は 5.83 と高い数値であった。

広報係が 4.49 という数値であった。全体の平均値は 5.12 という数値であった。

係活動の違いにかかわらず、ミュージカルの制作を通じて、他者と共同して活動を企画・運営・展開することができるようになったという実感を持っていることが推察できる。

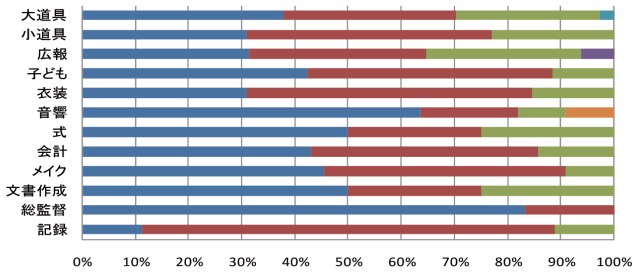
①全く当てはまらないとする否定の回答は見られない。

表 21　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	4.78	5.83	5.13	5.27	5.14	5.25	5.36	5.31	5.23	4.49	4.69	4.97
標準偏差	0.63	0.37	0.78	0.75	0.83	0.83	0.64	0.61	0.75	0.92	0.82	0.91

21　集団において、他者と協力して課題に取り組むことができるようになった

図・表 21



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	11%	83%	50%	45%	43%	50%	64%	31%	42%	31%	31%	38%
⑤	78%	17%	25%	45%	43%	25%	18%	54%	46%	33%	46%	32%
④	11%	0%	25%	9%	14%	25%	9%	15%	12%	29%	23%	27%
③	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	6%	0%	0%
②	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	9%	0%	0%	0%	0%	0%

表 22　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	5.00	5.83	5.25	5.36	5.29	5.25	5.18	5.15	5.31	4.90	5.08	5.03
標準偏差	0.47	0.37	0.83	0.64	0.70	0.83	1.47	0.66	0.67	0.92	0.73	0.94

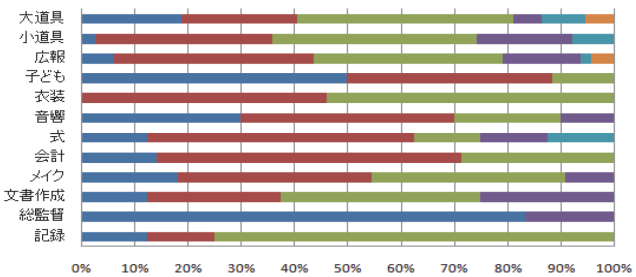
21 の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、4 点台の数値が 4.90 の広報係だけでその他の係活動は 5 点台の数値であった。総監督は 5.83 という高い数値であり、全体の平均値は 5.22 という数値であった。音響係から 9 %全く当てはまらないという結果が出ている。

係活動の違いにかかわらず、ミュージカルの制作を通じて､集団において。他者と協力して課題に取り組むことができるようになったという肯定的な評価であった。

①全く当てはまらないとする否定の回答が音響係に 9 %見られる。

22　子どもたちの発達段階を考慮して、適切に接することができるようになった

図・表 22



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	13%	83%	13%	18%	14%	13%	30%	0%	50%	6%	3%	19%
⑤	13%	0%	25%	36%	57%	50%	40%	46%	38%	38%	33%	22%
④	75%	0%	38%	36%	29%	13%	20%	54%	12%	35%	38%	41%
③	0%	17%	25%	9%	0%	13%	10%	0%	0%	15%	18%	5%
②	0%	0%	0%	0%	0%	13%	0%	0%	0%	2%	8%	8%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	0%	5%

表 23　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	4.38	5.50	4.25	4.64	4.86	4.38	4.90	4.46	5.38	4.19	4.05	4.22
標準偏差	0.70	1.12	0.97	0.88	0.64	1.22	0.94	0.50	0.68	1.09	0.96	1.34

22 の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、4 点台の数値が 10 の係活動から、5 点台の数値が総監督の 5.50 と子ども係の 5.38 という結果であった。大道具係から 5 %、広報係から 4 %全く当てはまらないという結果が出ている。

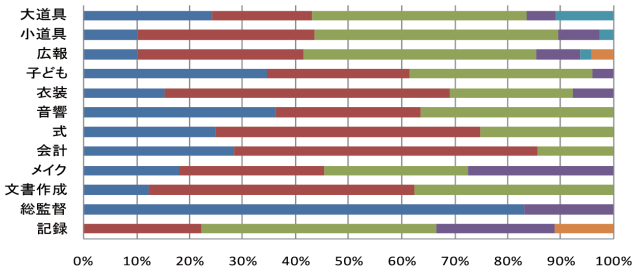
全体の平均値は 4.60 という数値であった。

係活動の違いにかかわらず、おおむねミュージカルの制作を通じて、子どもの発達段階を考慮して、適切に接することができるようになったという実感を持っていることが推察できる。

①全く当てはまらないとする否定の回答が大道具係､、広報係に 5 ～ 4 %見られる。

23　手遊び歌や的確な話し方など活動を行う上での基本的な表現の技術を身につけることができた

図・表 23



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	0%	83%	13%	18%	29%	25%	36%	15%	35%	10%	10%	24%
⑤	22%	0%	50%	27%	57%	50%	27%	54%	27%	31%	33%	19%
④	44%	0%	38%	27%	14%	25%	36%	23%	35%	44%	46%	41%
③	22%	17%	0%	27%	0%	0%	0%	8%	4%	8%	8%	5%
②	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	3%	11%
①	11%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	0%	0%

表 24　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	3.67	5.50	4.75	4.36	5.14	5.00	5.00	4.77	4.92	4.27	4.41	4.41
標準偏差	1.15	1.12	0.66	1.07	0.64	0.71	0.85	0.80	0.92	1.09	0.87	1.22

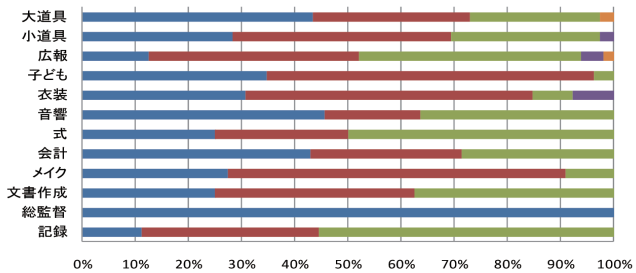
23 の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、４点台の数値が７つの係活動から、５点台の数値が４つの係活動から表示された。総監督は 5.50 と高く、記録係は 3.67 と低い数値であった。また、全体の平均値は 4.68 であった。記録係から 11%、広報係から４％の割合で全く当てはまらないという結果が出ている。

係活動の違いにかかわらず、おおむねミュージカルの制作を通じて、手遊び歌や的確な話し方など活動を行う上での基本的な表現の技術を身につけることができたという肯定的な評価であった。

①全く当てはまらないとする否定の回答が記録係、広報係に 11 ～ 4 ％見られた。

24　集団において、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割をきちんとこなすことができるようになった

図・表 24



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	11%	100%	25%	27%	43%	25%	45%	31%	35%	13%	28%	43%
⑤	33%	0%	38%	64%	29%	25%	18%	54%	62%	40%	41%	30%
④	56%	0%	38%	9%	29%	50%	36%	8%	4%	42%	28%	24%
③	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	8%	0%	4%	3%	0%
②	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	3%

表 25　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	4.56	6.00	4.88	5.18	5.14	4.75	5.09	5.08	5.31	4.54	4.95	5.08
標準偏差	0.68	0.00	0.78	0.57	0.83	0.83	0.90	0.83	0.54	0.91	0.81	1.05

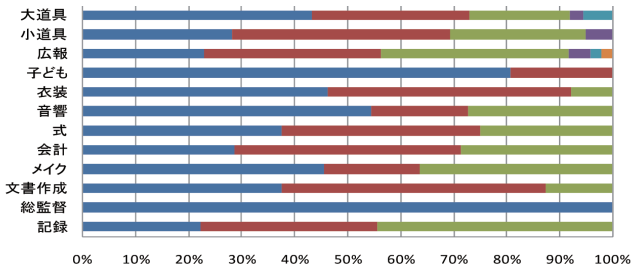
24 の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、４点台の数値が５つの係活動から、５点台の数値が６つの係活動から表示された。総監督は６点と高かった、また、全体の平均値は 5.05 であった。しかし、大道具係、広報係の学生で全く当てはまらないとする学生が2～3%存在した。

係活動の違いにかかわらず、ミュージカルの制作を通じて、集団において、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割をきちんとこなすことができるようになったという実感を持っていることが推察できる。

①全く当てはまらないとする否定の回答が大道具係、広報係に３～２％見られた。

25　気軽に子どもと挨拶したり、話を聞いたりするなど、親しみを持った態度で接することができるようになった

図・表 25



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	22%	100%	38%	45%	29%	38%	55%	46%	81%	23%	28%	43%
⑤	33%	0%	50%	18%	43%	38%	18%	46%	19%	33%	41%	30%
④	44%	0%	13%	36%	29%	25%	27%	8%	0%	35%	26%	19%
③	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	5%	3%
②	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	5%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	0%

表 26　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	4.78	6.00	5.25	5.09	5.00	5.13	5.27	5.38	5.81	4.65	4.92	5.03
標準偏差	0.79	0.00	0.66	0.90	0.76	0.78	0.86	0.62	0.39	1.07	0.86	1.10

25 の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、4 点台の数値が 3 つの係活動から、5 点台の数値が 8 つの係活動から表示された。総監督は 6 点と高かった。

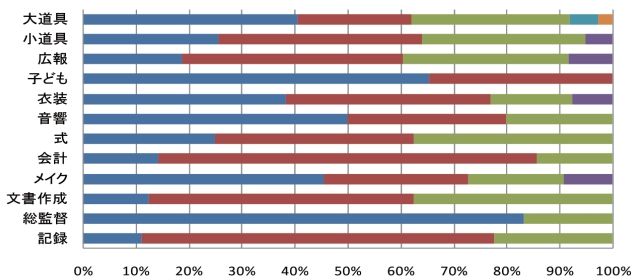
全体の平均値は 5.19 とやや高い数値であった。しかし、広報係の学生で全く当てはまらないとする学生が 2 % 存在した。

係活動の違いにかかわらず、ミュージカルの制作を通じて、気軽に子どもと挨拶したり、話を聞いたりするなど、親しみを持った態度で接することができるようになったという肯定的な評価であった。

①全く当てはまらないとする否定の回答が広報係に 2 % 見られた。

26　子どの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができるようになった

図・表 26



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	11%	83%	13%	45%	14%	25%	50%	38%	65%	19%	26%	41%
⑤	67%	0%	50%	27%	71%	38%	30%	38%	35%	42%	38%	22%
④	22%	17%	38%	18%	14%	38%	20%	15%	0%	31%	31%	30%
③	0%	0%	0%	9%	0%	0%	0%	8%	0%	8%	5%	0%
②	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	5%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%

表 27　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	4.89	5.67	4.75	5.09	5.00	4.88	5.30	5.08	5.65	4.71	4.85	4.84
標準偏差	0.57	0.75	0.66	1.00	0.53	0.78	0.78	0.92	0.48	0.87	0.86	1.26

26 の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、4 点台の数値が 6 つの係活動から、5 点台の数値が 6 つの係活動から表示された。

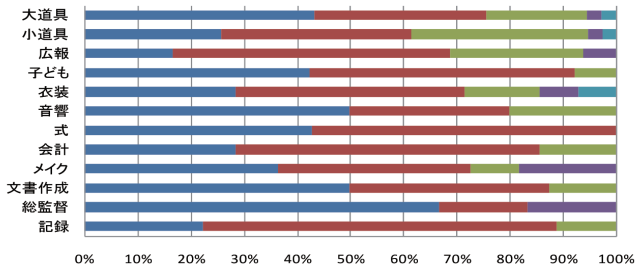
全体の平均値は 5.06 とやや高い数値であった。しかし、大道具係で全く当てはまらないと回答する学生が 3 % 存在した。

係活動の違いにかかわらず、ミュージカルの制作を通じて、子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができるようになったという実感を持っていることが推察できる。

①全く当てはまらないとする否定の回答が大道具係に 3 % 見られた。

27　挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方等、社会人としての基本的な事項が身についた

図・表 27



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	22%	67%	50%	36%	29%	43%	50%	29%	42%	17%	26%	43%
⑤	67%	17%	38%	36%	57%	57%	30%	43%	50%	52%	36%	32%
④	11%	0%	13%	9%	14%	0%	20%	14%	8%	25%	33%	19%
③	0%	17%	0%	18%	0%	0%	0%	7%	0%	6%	3%	3%
②	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	7%	0%	0%	3%	3%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

27 の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、4 点台の数値が 4 つの係活動から、5 点台の数値が 8 つの係活動から表示された。

全体の平均値は 5.12 とやや高い数値であった。

係活動の違いにかかわらず、ミュージカルの制作を通じて、挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方等、社会人としての基本的な事項が身についたという肯定的な評価であった。

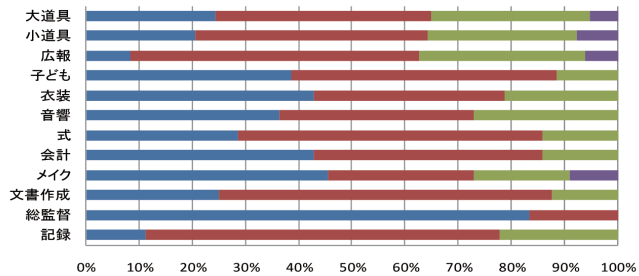
①全く当てはまらないとする否定の回答は見られない。

表 28　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	5.11	5.33	5.38	4.91	5.14	5.43	5.30	4.79	5.35	4.79	4.79	5.11
標準偏差	0.57	1.11	0.70	1.08	0.64	0.49	0.78	1.15	0.62	0.79	0.94	0.98

28　自己の課題を認識し、その解決に向けて、学び続ける姿勢を持てるようになった

図・表 28



	記録	総監督	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
⑥	11%	83%	25%	45%	43%	29%	36%	43%	38%	8%	21%	24%
⑤	67%	17%	63%	27%	43%	57%	36%	36%	50%	54%	44%	41%
④	22%	0%	13%	18%	14%	14%	27%	21%	12%	31%	28%	30%
③	0%	0%	0%	9%	0%	0%	0%	0%	0%	6%	8%	5%
②	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
①	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

28 の設問に対し、それぞれの係活動別の平均値を見てみると、4 点台の数値が 4 つの係活動から、5 点台の数値が 8 つの係活動から表示された。

全体の平均値は 5.10 とやや高い数値であった。

係活動の違いにかかわらず、ミュージカルの制作を通じて、自己の課題を認識し、その解決に向けて、学び続ける姿勢を持てるようになったという実感を持っていることが推察できる。

①全く当てはまらないとする否定の回答は見られない。

表 29　平均値及び標準偏差

	記録	総監	文書作成	メイク	会計	式	音響	衣装	子ども	広報	小道具	大道具
平均	4.89	5.83	5.13	5.09	5.29	5.14	5.09	5.21	5.27	4.65	4.77	4.84
標準偏差	0.57	0.37	0.60	1.00	0.70	0.64	0.79	0.77	0.65	0.72	0.86	0.85

分析結果

今回のアンケート対象者は平成 27 年度～平成 29 年度の 3 年間に実施したミュージカルに出演した学生たち 226 名である。28 項目の係活動別に関する平均値を見てみると、すべて 4～5 点台の点数であった。特に 5.2 点以上の高得点を挙げている項目が 6 項目あった。以下にあげてみたい。

表 30　平均値（5.2 点以上）

2	話し合う中で他の人の意見（反論も含めて）を理解しようと努めた	5.27 点
4	議論した結果について受け入れ、行動した	5.28 点
5	練習や係活動を通じて協調性を身につけることができた	5.21 点
6	練習や係活動を通じてコミュニケーション能力を身につけることができた	5.20 点
19	他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができるようになった	5.29 点
21	集団において、他者と協力して課題に取り組むことができるようになった	5.22 点

上記の項目は、集団において問題を解決するときのコミュニケーション能力や協調性、他者の意見やアドバイスを聞いて理解や協力を得て課題に取り組むことができるようになった等の非認知能力に関わる力であり、その育成に寄与していることが考えられる。演技するための表現力をつけるだけを目的としない保育者としての資質能力を高めるという授業体制が学生にも伝わっているのではないだろうか。

また、28 項目の達成状況を見ると、全ての項目において程度の差は若干あるが、様々な係活動の違いによる差異はなく、それぞれの項目の力が身についたと感じている傾向がわかった。授業担当者としてうれしいことであるが、中には全く当てはまらないと回答する学生が若干名存在する。該当する係名は、音響係、広報係、大道具係、小道具係、記録係、子ども係などであった。特に 10%前後の数値に対して分析をしてみると、例えば、13、23 の設問では、記録係の 11%が全く当てはまらないと回答している。おそらく、ミュージカルの制作過程の記録だけを撮ればいいと考えていることによる受身的な感じ方が働いていたのではないかと考えられる。

また、1, 2, 3, 4, 8, 13、21 の設問で音響係の 9 %が全く当てはまらないと回答している。音響係は毎年、専任スタッフとしてこの係だけに専念しているため、音響機器との関わる時間が圧倒的に長いことや、音響担当の教員とのやり取りだけが多いことなど、結果として、他の演技をする学生や子どもたちとの直接体験が少ないことなどが、これらの結果に反映したのではないかと考えられる。

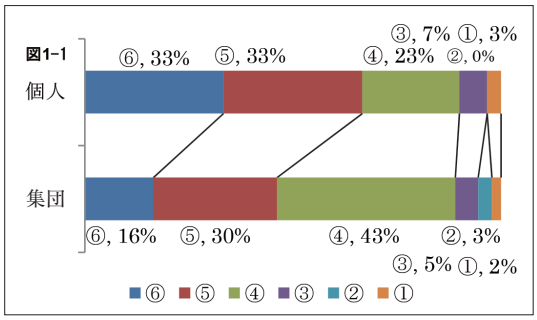
今回のアンケート結果を見て、授業担当者として学生たちにそれぞれの係活動が協力しあって機能しなければこのミュージカルは成立しないということを伝えていくことの大切さを感じた。また、今後の課題として専任スタッフの仕事であっても、制作過程において、授業の一環として様々な場面で他の学生や子どもたちと演技の練習空間や時間を共有する機会を増やすように心がけたい。

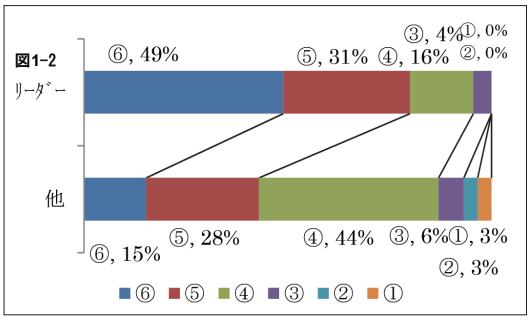
（2）キャストの人数構成及び係の役割による比較

毎年、キャストの選定方法はオーディションシステムにより行われている。オーディションでは個人（一人）役の希望者が多いため、倍率が高く、希望の役を手にする学生は数人である。一方、集団で構成する役を第１希望にしている学生は若干の人数調整等を行うことで、ほぼ希望した役に就くことができている。また、全学生が所属する係の決定方法は、各係の必要人数を定め、希望を取り、話し合いの中で調整している。

本結果は 28 の質問項目において、⑥非常に当てはまる（6 点）、⑤当てはまる（5 点）、④やや当てはまる（4 点）、③やや当てはまらない（3 点）、②当てはまらない（2 点）、①全く当てはまらない（1 点）、の評価段階を提示し回答を求め、母集団をキャストにおける個人（一人）役と集団で構成する役に分けた集計及び係のリーダーとしての役割をもつ学生と、それ以外の学生に分けて集計を行った。特に⑥の非常に当てはまる、⑤当てはまる、④やや当てはまるの評価（%）を合わせた肯定的な回答（以下肯定的な回答という）に着目した。また、「①全く当てはまらない」とする否定の回答にも着目した。さらに、各評価段階を点数化し平均値及び標準偏差値を算出した。その集計結果に差異が見られるか比較検討を行った。

1　制作の過程で自分の意見・アイディアなどを伝えた





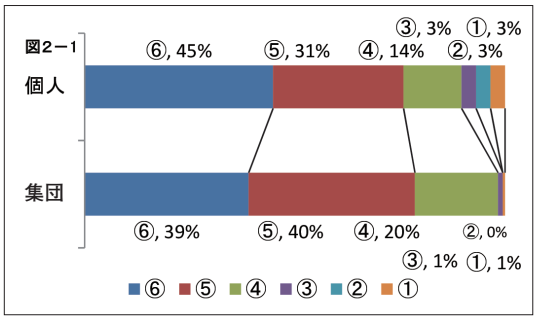
個人【平均：4.83　標準偏差：1.16】
集団【平均：4.44　標準偏差：1.07】

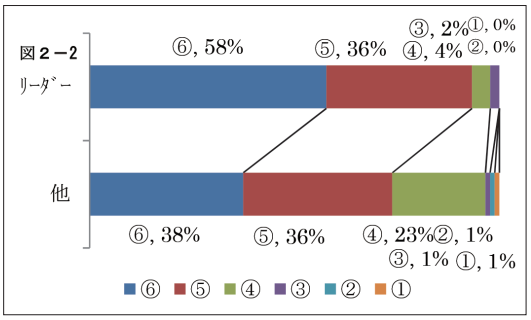
リーダー　【平均：5.24　標準偏差：0.87】
他（リーダー以外）【平均：4.35　標準偏差：1.13】

１の設問に対し、図１−１のキャスト別では⑥⑤④を合わせた肯定的な回答（以下肯定的な回答）は個人と集団共に 80% で差異は見られないが、平均値の比較から個人役の自己評価が高い。図１−２の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが 96%、他が 87% とリーダーが高く、平均値の比較においてもリーダーの自己評価が高い。

①全く当てはまらないとする否定の回答がキャスト別では個人に 3%、集団に 2%、係の役割別では他（リーダー以外）に 3% 見られる。

２　話し合う中で他の人の意見（反論も含めて）を理解しようと努めた





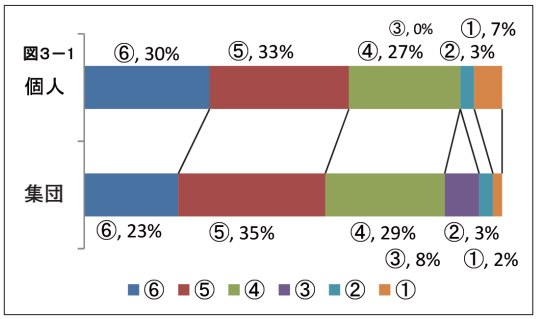
個人【平均：5.00　標準偏差：1.26】
集団【平均：5.15　標準偏差：0.84】

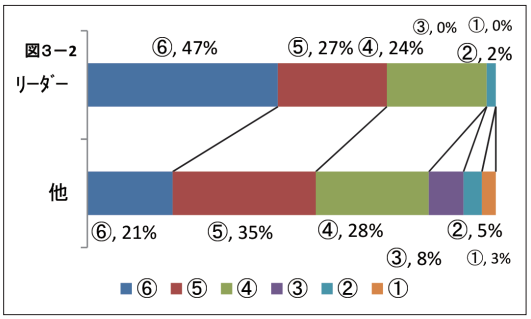
リーダー　【平均：5.49　標準偏差：0.69】
他（リーダー以外）【平均：5.05　標準偏差：0.96】

２の設問に対し、図２－１のキャスト別では肯定的な回答は個人が 90%、集団が 99% であり、平均値の比較においても、複数役の自己評価が高い。図２－２の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが 98%、他が 97% でリーダーが僅かに高く、平均値の比較においてもリーダーの自己評価が高い。

①全く当てはまらないとする否定の回答がキャスト別では個人に３%、複数に１％、係の役割別では他（リーダー以外）に１％見られる。

３　意見を交わして議論を行った





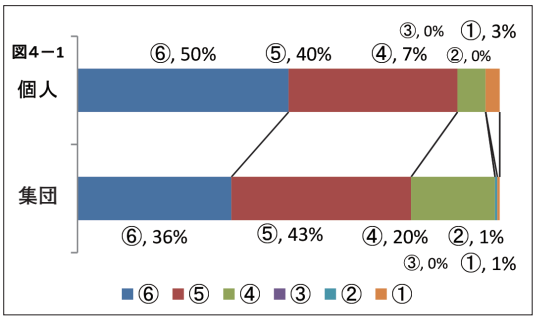
個人【平均：4.67　標準偏差：1.16】
集団【平均：4.59　標準偏差：1.07】

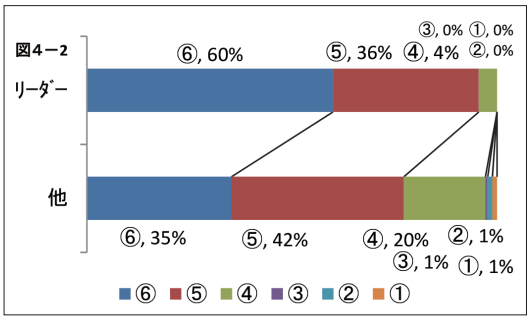
リーダー　【平均：5.16　標準偏差：0.94】
他（リーダー以外）【平均：4.49　標準偏差：1.23】

３の設問に対し、図３－１のキャスト別では肯定的な回答は個人が 90%、集団が 87% と、個人役がやや高く、平均値の比較においても個人役の自己評価がやや高い。図３－２の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが 98%、他が 84% でリーダーが高く、平均値の比較においてもリーダーの自己評価が高い。

①全く当てはまらないとする否定の回答がキャスト別では個人に７%、集団に２%、係の役割別では他（リーダー以外）に３%見られる。

4　議論した結果について受け入れ行動した





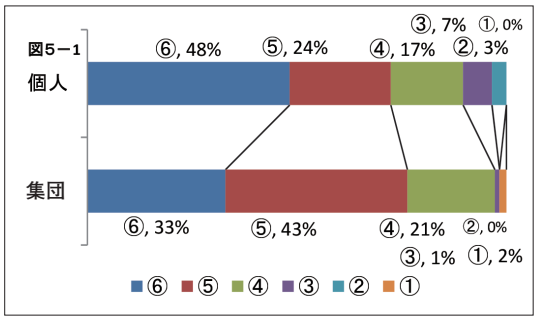
個人【平均：5.30　標準偏差：1.00】
集団【平均：5.10　標準偏差：0.91】

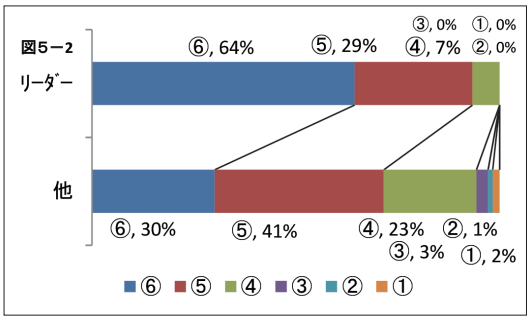
リーダー【平均：5.56　標準偏差：0.58】
他（リーダー以外）【平均：5.06　標準偏差：0.92】

4の設問に対し、図4－1のキャスト別では肯定的な回答は個人が97%、集団が99%と集団役が僅かに高いが、平均値の比較においては個人役がやや高い。図4－2の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが100%、他が97%でリーダーが高く、平均値の比較においてもリーダーの自己評価が高い。

①全く当てはまらないとする否定の回答がキャスト別では個人に3%、係の役割別では他（リーダー以外）に1%見られる。

5　練習や係活動を通じて協調性を身につけることができた





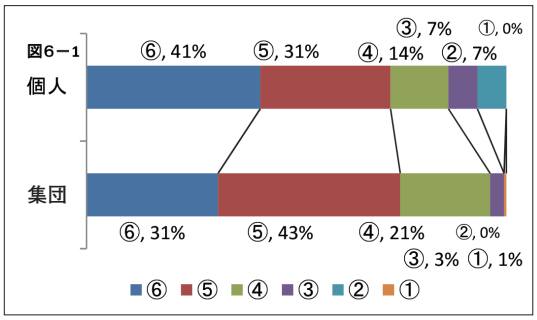
個人【平均：5.07　標準偏差：1.11】
集団【平均：5.03　標準偏差：0.92】

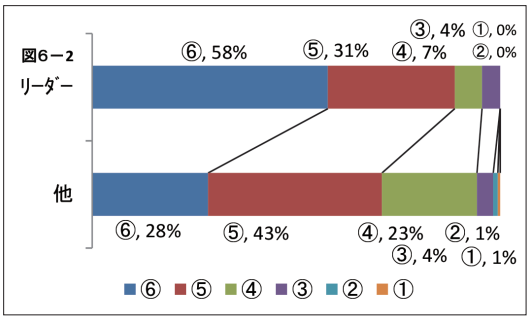
リーダー【平均：5.58　標準偏差：0.61】
他（リーダー以外）【平均：4.91　標準偏差：1.00】

5の設問に対し、図5－1のキャスト別では肯定的な回答は個人が89%、集団が97%と、複数役が高いが、平均値の比較においては個人役が僅かに高い。図5－2の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが100%、他が94%であり平均値の比較においてもリーダーの自己評価が高い。

①全く当てはまらないとする否定の回答がキャスト別では集団に2%、係の役割別では他（リーダー以外）に2%見られる。

６　練習や係活動を通じてコミュニケーション能力を身につけることができた



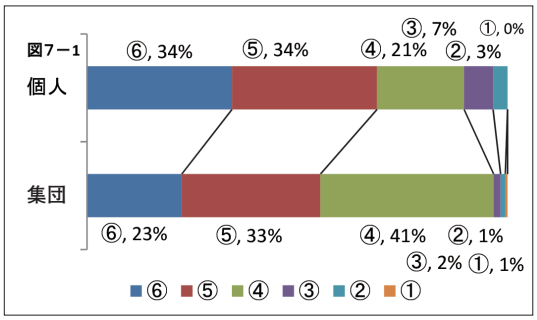


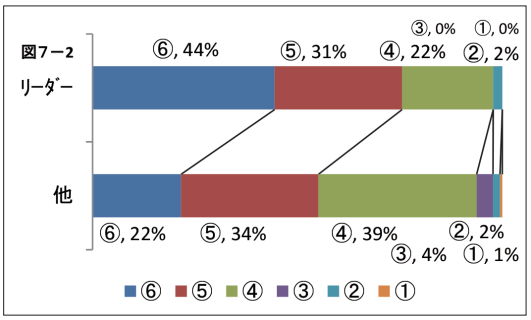
個人【平均：4.93　標準偏差：1.20】　　リーダー　　【平均：5.42　標準偏差：0.80】
集団【平均：5.01　標準偏差：0.86】　　他（リーダー以外）【平均：4.91　標準偏差：0.93】

6 の設問に対し、図 6－1 のキャスト別では肯定的な回答は個人が 86%、集団が 95% と、集団役が高く、平均値の比較においても集団役の自己評価が高い。図 6－2 の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが 96%、他が 94% でリーダーが高く、平均値の比較においてもリーダーの自己評価が高い。

①全く当てはまらないとする否定の回答がキャスト別では集団に１％、係の役割別では他（リーダー以外）に１％見られる。

７　練習や係活動を通じて問題解決能力を身につけることができた



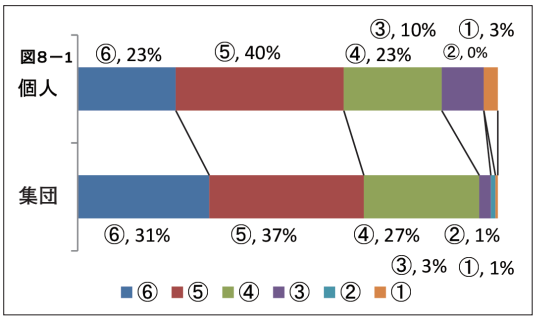


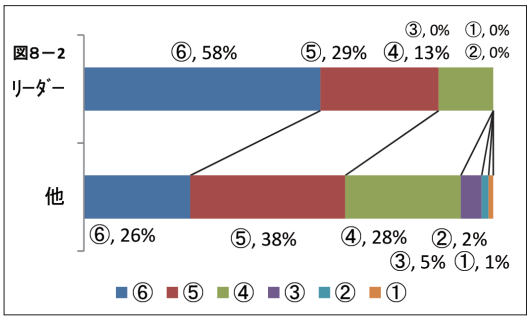
個人【平均：4.90　標準偏差：1.06】　　リーダー　　【平均：5.16　標準偏差：0.92】
集団【平均：4.73　標準偏差：0.90】　　他（リーダー以外）【平均：4.68　標準偏差：0.95】

7 の設問に対し、図 7－1 のキャスト別では肯定的な回答は個人が 89%、集団が 97% と、集団役が高いが、平均値の比較においては個人役が高い。図 7－2 の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが 97%、他が 95% でリーダーが高く、平均値の比較においてもリーダーの自己評価が高い。

①全く当てはまらないとする否定の回答がキャスト別では集団に１%、係の役割別では他（リーダー以外）に１%見られる。

8　与えられた授業時間を意識して積極的に制作活動に取り組んだ





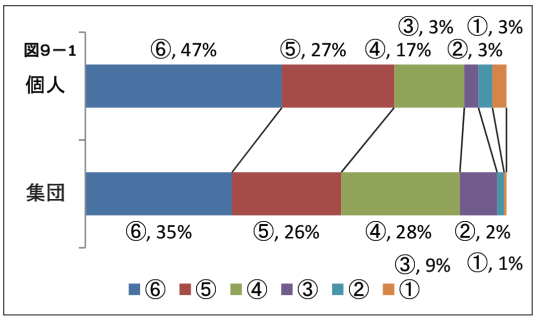
個人【平均：4.67　標準偏差：1.14】
集団【平均：4.93　標準偏差：0.94】

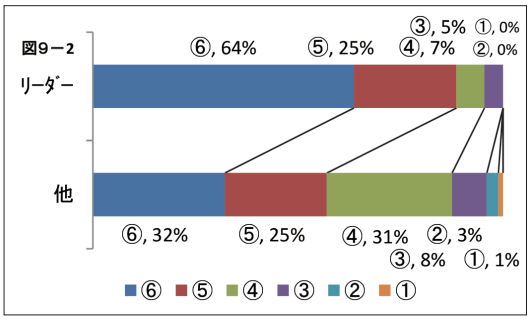
リーダー【平均：5.44　標準偏差：0.72】
他（リーダー以外）【平均：4.78　標準偏差：1.02】

8の設問に対し、図8−1のキャスト別では肯定的な回答は個人が86%、集団が95%と、集団役が高く、平均値の比較においても、集団役の自己評価が高い。図8−2の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが100%、他が92%でリーダーが高く、平均値の比較においても、リーダーの自己評価が高い。

①全く当てはまらないとする否定の回答がキャスト別では個人に3%、複数に1%、係の役割別では他（リーダー以外）に1%見られる。

9　授業時間以外での自主的活動を積極的に行った





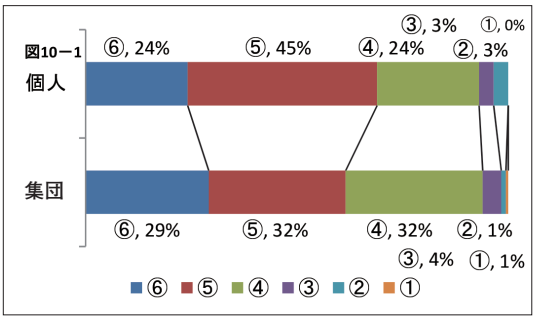
個人【平均：5.00　標準偏差：1.26】
集団【平均：4.79　標準偏差：1.14】

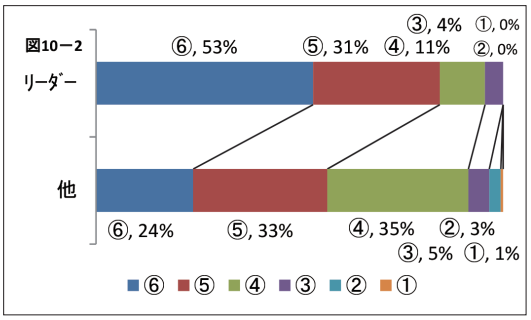
リーダー【平均：5.48　標準偏差：0.81】
他（リーダー以外）【平均：4.72　標準偏差：1.15】

9の設問に対し、図9−1のキャスト別では肯定的な回答は個人が91%、集団が89%と、個人役が高く、平均値の比較においても個人役の自己評価が高い。図9−2の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが96%、他が88%でリーダーが高く、平均値の比較においてもリーダーの自己評価が高い。

①全く当てはまらないとする否定の回答がキャスト別では個人に3%、集団に1%、係の役割別では他（リーダー以外）に1%見られる。

10　練習や係活動を通じて自主性を身につけることができた





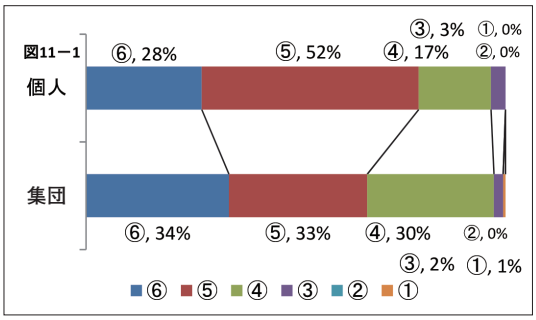
個人【平均：4.83　標準偏差：0.95】
集団【平均：4.82　標準偏差：0.97】

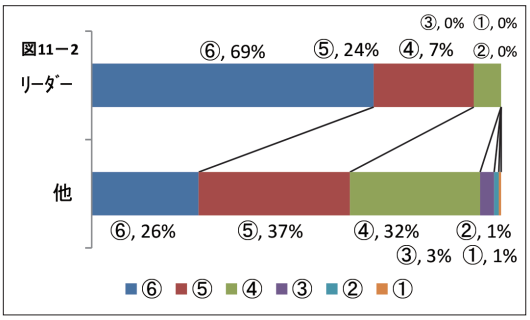
リーダー　【平均：5.33　標準偏差：0.84】
他（リーダー以外）【平均：4.68　標準偏差：1.02】

10 の設問に対し、図 10－1 のキャスト別では肯定的な回答は個人と集団共に 93% で差異は見られないが、平均値の比較から個人役の自己評価が僅かに高い。図 10－2 の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが 95%、他が 92% でリーダーがやや高く、平均値の比較においてもリーダーの自己評価が高い。

①全く当てはまらないとする否定の回答がキャスト別では、集団に 1%、係の役割別では他（リーダー以外）に 1 %見られる。

11　練習や係活動を通じて責任感を身につけることができた





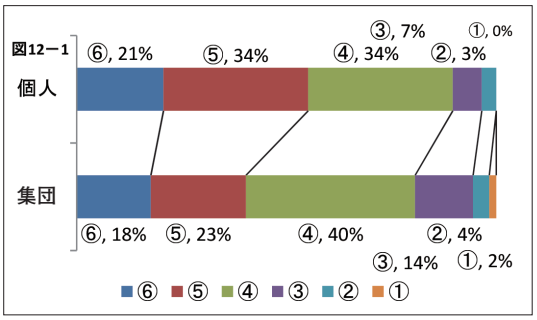
個人【平均：5.03　標準偏差：0.76】
集団【平均：4.97　標準偏差：1.07】

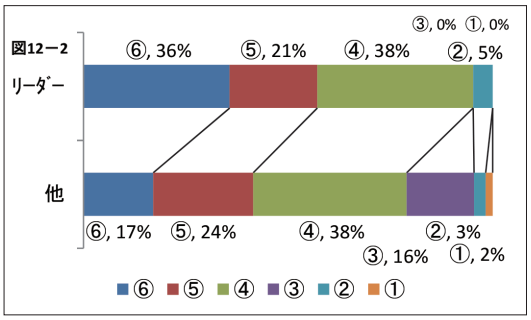
リーダー　【平均：5.62　標準偏差：0.61】
他（リーダー以外）【平均：4.82　標準偏差：0.94】

11 の設問に対し、図 11－1 のキャスト別では肯定的な回答は個人と集団共に 97% で差異は見られないが、平均値の比較において個人役の自己評価が高いと言える。図 11－2 の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが 95%、他が 92% でリーダーが高く、平均値の比較においてもリーダーの自己評価が高い。

①全く当てはまらないとする否定の回答がキャスト別では集団に 1 %、係の役割別では他（リーダー以外）に 1 %見られる。

12　演じる中で自分の特技（得意分野）を活かすことができた



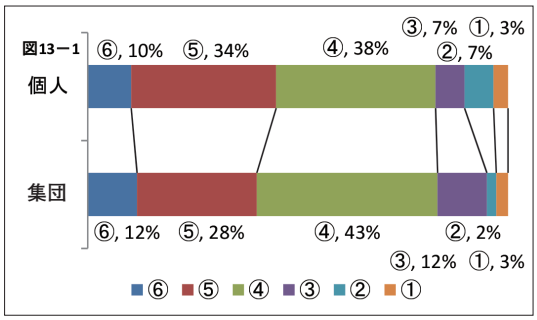


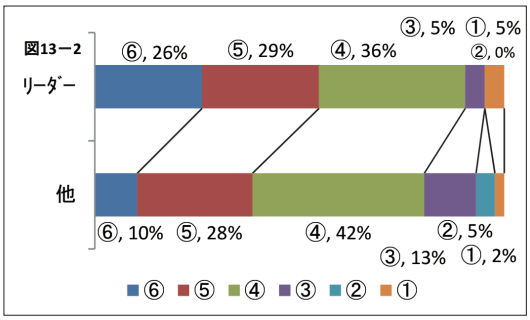
個人【平均：4.62　標準偏差：1.00】　　リーダー　　【平均：4.83　標準偏差：1.07】
集団【平均：4.29　標準偏差：1.17】　　他（リーダー以外）【平均：4.31　標準偏差：1.12】

12 の設問に対し、図 12－1 のキャスト別では肯定的な回答は個人が 89%、集団が 81% と、個人役が高く、平均値の比較においても個人役の自己評価が高い。図 12－2 の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが 95%、他が 79% でリーダーが高く、平均値の比較においてもリーダーの自己評価が高い。

①全く当てはまらないとする否定の回答がキャスト別では集団に 2%、係の役割別では他（リーダー以外）に 2% 見られる。

13　演じる中で自分の苦手（不得意分野）な部分が克服できた



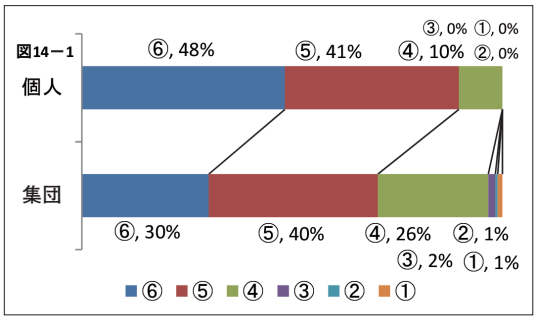


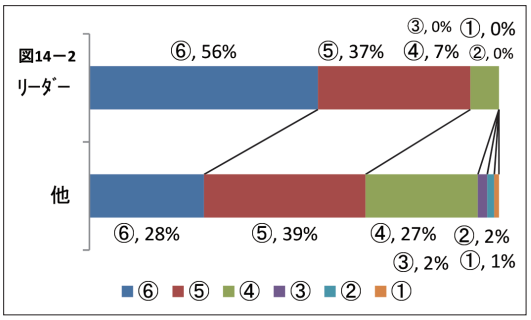
個人【平均：4.24　標準偏差：1.16】　　リーダー　　【平均：4.62　標準偏差：1.19】
集団【平均：4.20　標準偏差：1.19】　　他（リーダー以外）【平均：4.20　標準偏差：1.08】

13 の設問に対し、図 13－1 のキャスト別では肯定的な回答は個人が 82%、集団が 83% と、複数役が僅かに高いが、平均値の比較においては個人役が僅かに高い。図 13－2 の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが 91%、他が 80% でリーダーの評価が高く、平均値の比較においてもリーダーの自己評価が高い。

①全く当てはまらないとする否定の回答がキャスト別では個人に 3%、複数に 3%、係の役割別ではリーダーに 5%、他（リーダー以外）に 2% 見られる。

14　役柄に応じた表現を身につけることができた





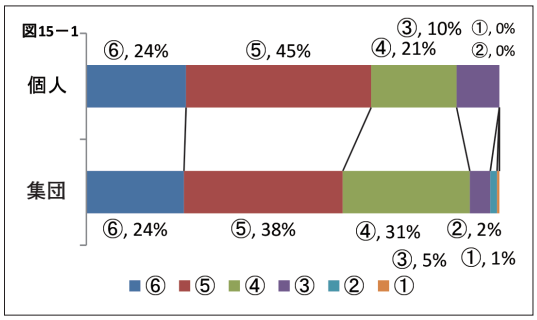
個人【平均：5.38　標準偏差：0.67】
集団【平均：4.86　標準偏差：1.11】

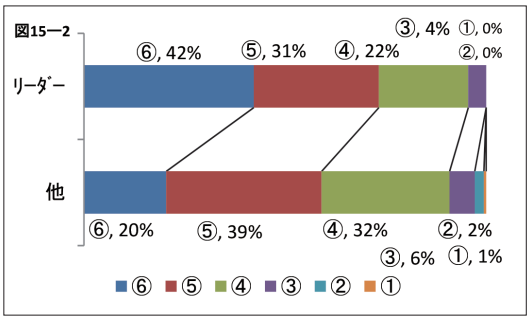
リーダー　【平均：5.49　標準偏差：0.62】
他（リーダー以外）【平均：4.86　標準偏差：0.98】

14 の設問に対し、図 14－1 のキャスト別では肯定的な回答は個人が 100%、集団が 96% と、個人役が高く、平均値の比較においても個人役の自己評価が高い。図 14－2 の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが 100%、他が 94% でリーダーの評価が高く平均値の比較においてもリーダーの自己評価が高い。

①全く当てはまらないとする否定の回答が、キャスト別では複数に 1%、係の役割別では他（リーダー以外）に 1% 見られる。

15　保育者に必要な表現活動の指導法を身につけることができた





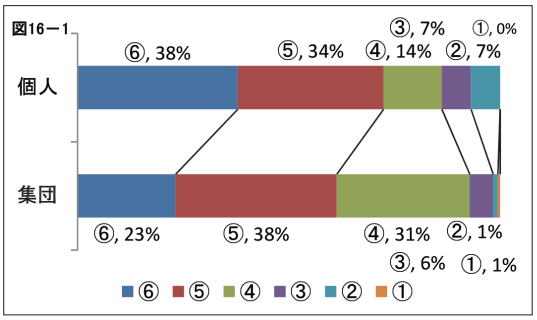
個人【平均：4.83　標準偏差：0.91】
集団【平均：4.76　標準偏差：0.96】

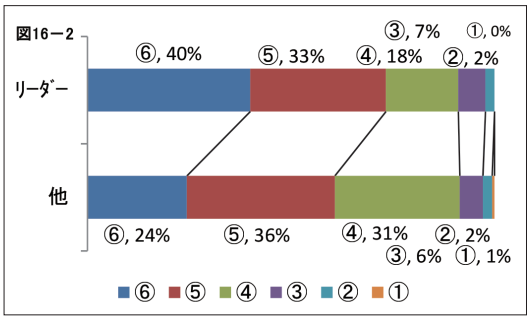
リーダー　【平均：5.11　標準偏差：0.90】
他（リーダー以外）【平均：4.67　標準偏差：0.98】

15 の設問に対し、図 15－1 のキャスト別では肯定的な回答は個人が 90%、集団が 93% と、集団役が高いが、平均値の比較においては個人役が高い。図 15－2 の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが 95%、他が 91% でリーダーが高く、平均値の比較においてもリーダーの自己評価が高い。

①全く当てはまらないとする否定の回答がキャスト別では複数に 1%、係の役割別では他（リーダー以外）に 1% 見られる。

16　保育者となったときに子どもの前で抵抗感なく音楽的表現に自信がついた



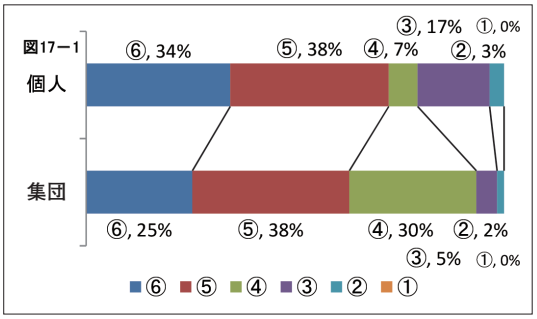


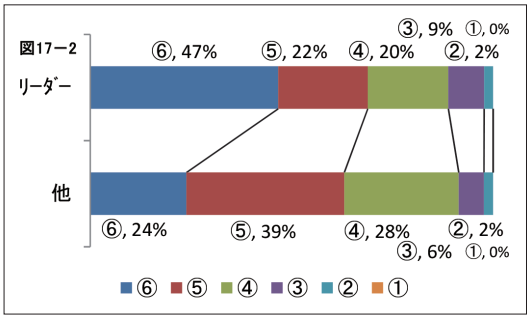
個人【平均：4.90　標準偏差：1.18】　　リーダー　　【平均：5.02　標準偏差：1.02】
集団【平均：4.73　標準偏差：1.01】　　他（リーダー以外）【平均：4.73　標準偏差：1.00】

16 の設問に対し、図 16－1 のキャスト別では肯定的な回答は個人が 86%、集団が 92% と、集団役が高いが、平均値の比較においては個人役が高い。図 16－2 の係の役割別では肯定的な回答はリーダーと他が共に 91% と差異は見られないが、平均値の比較からリーダー役の自己評価が高いと言える。

①全く当てはまらないとする否定の回答がキャスト別では複数に 1 %、係の役割別では他（リーダー以外）に 1 %見られる。

17　保育者となったときに子どもの前で抵抗感なく身体的表現（ダンス・感情表現等）に自信がついた



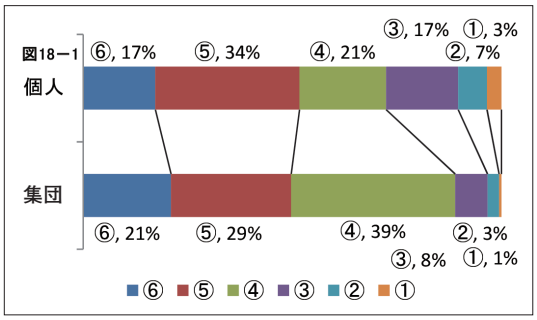


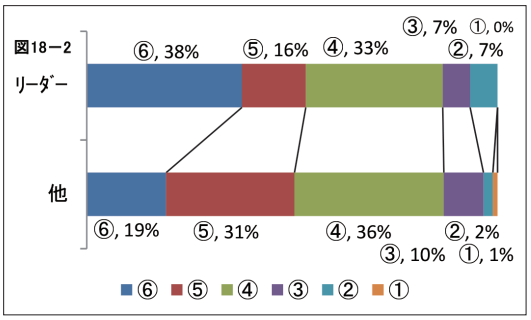
個人【平均：4.83　標準偏差：1.18】　　リーダー　　【平均：5.02　標準偏差：1.11】
集団【平均：4.77　標準偏差：0.99】　　他（リーダー以外）【平均：4.76　標準偏差：0.96】

17 の設問に対し、図 17－1 のキャスト別では肯定的な回答は個人が 79%、集団が 93% と、集団役が高いが、平均値の比較においては個人役が高い。図 17－2 の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが 89%、他が 91% で他の僅かに高いが、平均値の比較においてはリーダーが高い。

①全く当てはまらないとする否定の回答は見られない。

18　保育者となったときに子どもの前で抵抗感なく造形的表現（描く・作る等）に自信がついた



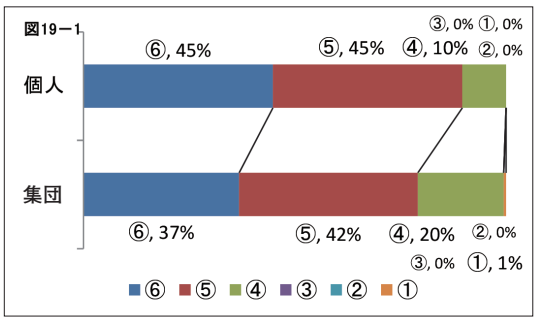


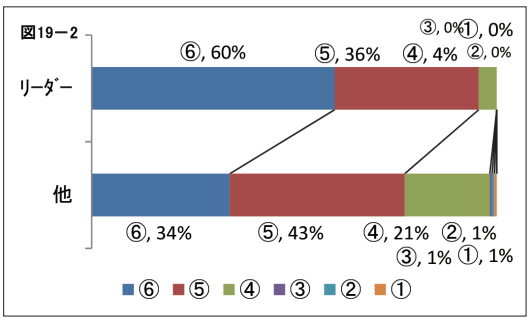
個人【平均：4.28　標準偏差：1.31】　　リーダー　　【平均：4.71　標準偏差：1.22】
集団【平均：4.53　標準偏差：1.08】　　他（リーダー以外）【平均：4.52　標準偏差：1.05】

18 の設問に対し、図 18－1 のキャスト別では肯定的な回答は個人が 72%、集団が 89% と、集団役が高く、平均値の比較においても集団役の自己評価が高い。図 18－2 の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが 87%、他が 86% でリーダーが高く、平均値の比較においてもリーダーの自己評価が高い。

①全く当てはまらないとする否定の回答が、キャスト別では個人に 3%、集団に 1%、係の役割別では他（リーダー以外）に 1% 見られる。

19　他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができるようになった



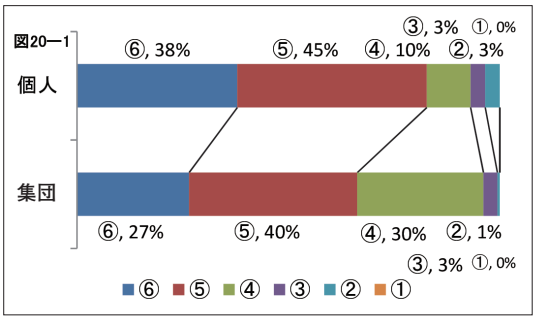


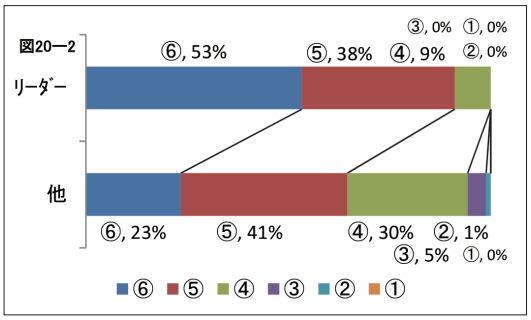
個人【平均：5.34　標準偏差：0.66】　　リーダー　　【平均：5.56　標準偏差：0.58】
集団【平均：5.14　標準偏差：0.80】　　他（リーダー以外）【平均：5.08　標準偏差：0.84】

19 の設問に対し、図 19－1 のキャスト別では肯定的な回答は個人が 100%、集団が 99% と、個人役が僅かに高く、平均値の比較においても個人役の自己評価が高い。図 14－2 の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが 100%、他が 94% でリーダーが高く、平均値の比較においてもリーダーの自己評価が高い。

①全く当てはまらないとする否定の回答が、キャスト別では集団に 1 %、係の役割別では他（リーダー以外）に 1% 見られる。

20　他者と共同して活動を企画・運営・展開することができるようになった



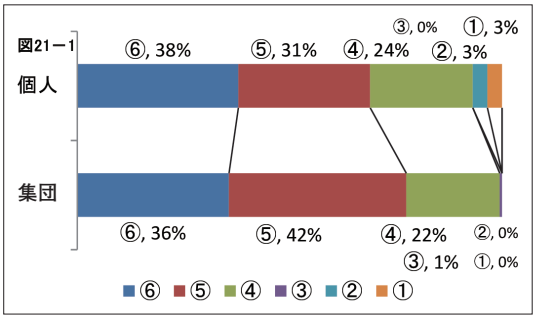


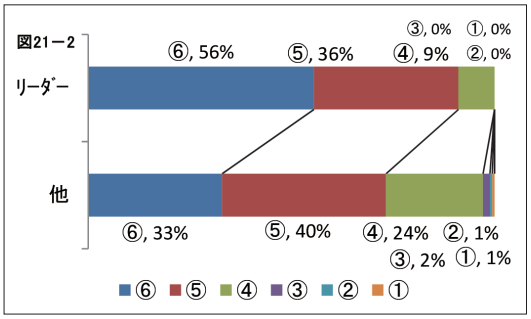
個人【平均：5.10　標準偏差：0.96】　　リーダー　　【平均：5.44　標準偏差：0.65】
集団【平均：4.86　標準偏差：0.93】　　他（リーダー以外）【平均：4.81　標準偏差：0.88】

20 の設問に対し、図 20 − 1 のキャスト別では肯定的な回答は個人が 93%、集団が 97% と、集団役が高いが、平均値の比較から個人役の自己評価が高いと言える。図 20 − 2 の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが 100%、他が 94% でリーダーが高く、平均値の比較においてもリーダー役の自己評価が高い。

①全く当てはまらないとする否定の回答は見られない。

21　集団において、他者と協力して課題に取り組むことができるようになった



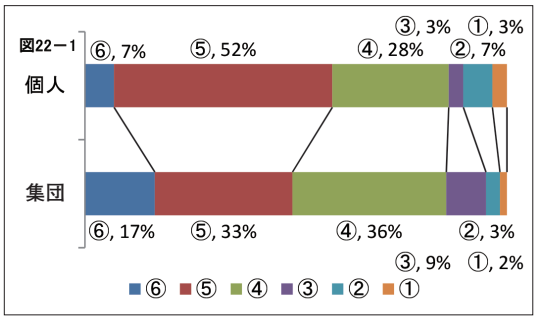


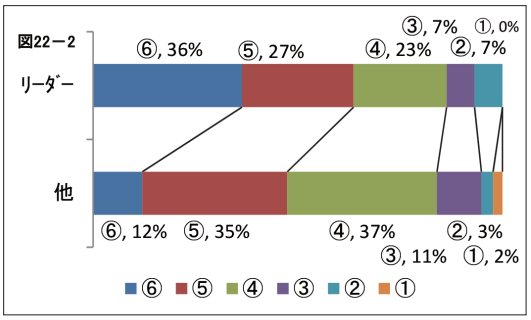
個人【平均：4.90　標準偏差：1.21】　　リーダー　　【平均：5.47　標準偏差：0.65】
集団【平均：5.13　標準偏差：0.76】　　他（リーダー以外）【平均：5.02　標準偏差：0.88】

21 の設問に対し、図 21 − 1 のキャスト別では肯定的な回答は個人が 93%、集団が 99% と、集団役が高く、平均値の比較からも集団役の自己評価が高い。図 21 − 2 の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが 100%、他が 96% でリーダーが高く、平均値の比較においてもリーダーの自己評価が高い。

①全く当てはまらないとする否定の回答が、キャスト別では個人に 3%、係の役割別では他（リーダー以外）に 1% 見られる。

22　子どもたちの発達段階を考慮して適切に接することができるようになった



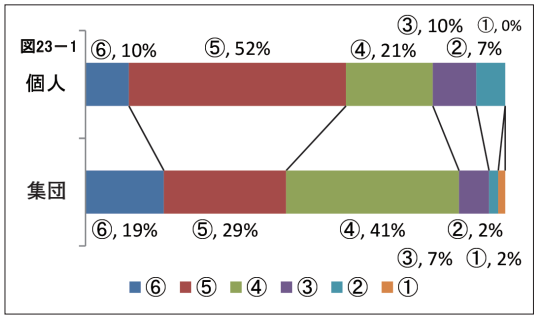


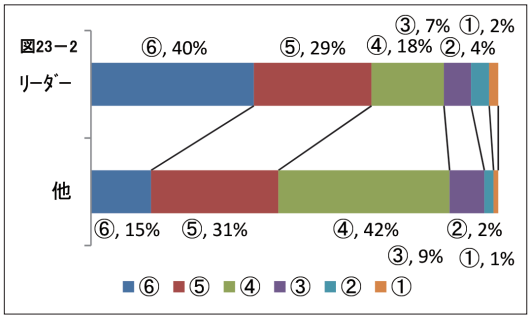
個人【平均：4.38　標準偏差：1.13】　　リーダー　　【平均：4.80　標準偏差：1.20】
集団【平均：4.42　標準偏差：1.13】　　他（リーダー以外）【平均：4.36　標準偏差：1.06】

22 の設問に対し、図 22 － 1 のキャスト別では肯定的な回答は個人が 87%、集団が 86% と、個人役が僅かに高いが、平均値の比較においては集団役が高い。図 22 － 2 の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが 86%、他が 84% でリーダーが高く、平均値の比較においてもリーダー役の自己評価が高い。

①全く当てはまらないとする否定の回答が、キャスト別では個人に 3%、集団に 2%、係の役割別では他（リーダー以外）に 2% 見られる。

23　手遊び歌や的確な話し方など、活動を行う上で基本的な表現の技術を身につけることができた



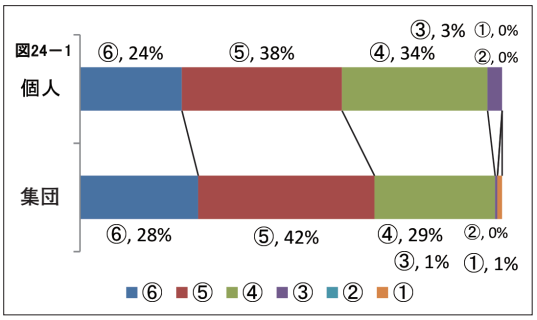


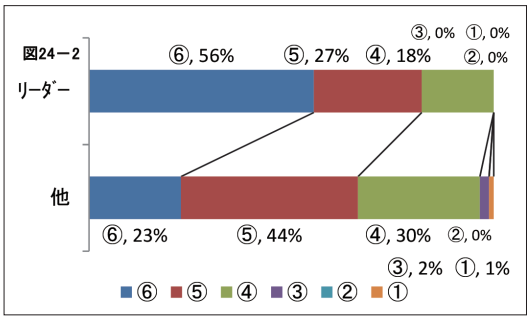
個人【平均：4.48　標準偏差：1.04】　　リーダー　　【平均：4.87　標準偏差：1.26】
集団【平均：4.50　標準偏差：1.05】　　他（リーダー以外）【平均：4.44　標準偏差：0.99】

23 の設問に対し、図 23－1 のキャスト別では肯定的な回答は個人が 83%、集団が 89% と、集団役が高く、平均値の比較においても集団役の自己評価が高い。図 23 － 2 の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが 87%、他が 88% で他（リーダー以外）が僅かに高く、平均値の比較においてはリーダー役の自己評価が高い。

①全く当てはまらないとする否定の回答が、キャスト別では集団に 2%、係の役割別ではリーダーに 2%、他（リーダー以外）に 1% 見られる。

24　集団において、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割をきちんとこなしたりすることができるようになった



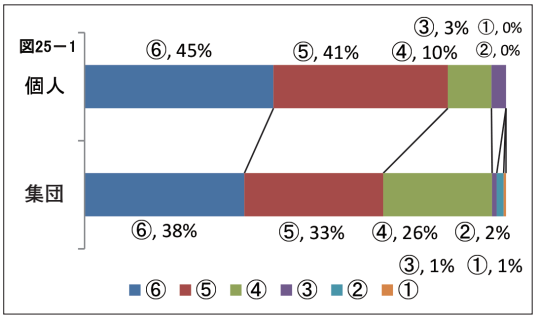


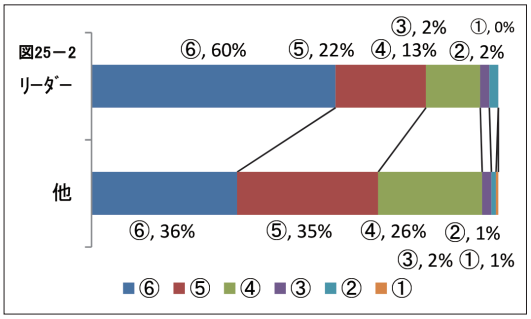
個人【平均：4.83　標準偏差：0.83】　　リーダー　　【平均：5.38　標準偏差：0.77】
集団【平均：4.94　標準偏差：0.87】　　他（リーダー以外）【平均：4.84　標準偏差：0.88】

24 の設問に対し、図 24 － 1 のキャスト別では肯定的な回答は個人が 97%、集団が 98% と、集団役が僅かに高く、平均値の比較からも集団役の自己評価が高い。図 24 － 2 の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが 100%、他が 97% でリーダーが高く、平均値の比較においてもリーダー役の自己評価が高い。

①全く当てはまらないとする否定の回答が、キャスト別では集団に 1 %、係の役割別では、他（リーダー以外）に 1%見られる。

25　気軽に子どもとあいさつをしたり、話を聴いたりするなど、親しみを持った態度で接することができるようになった



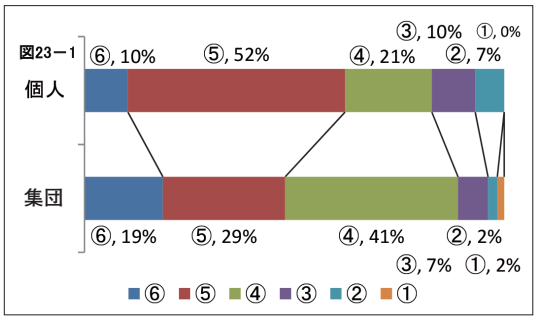


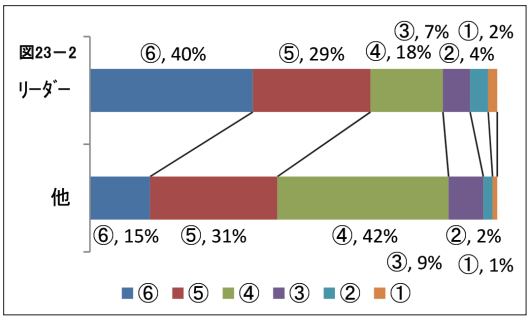
個人【平均：5.28　標準偏差：0.78】　　リーダー　　【平均：5.36　標準偏差：0.95】
集団【平均：5.03　標準偏差：1.07】　　他（リーダー以外）【平均：5.00　標準偏差：0.95】

25 の設問に対し、図 25－1 のキャスト別では肯定的な回答は個人が 96%、集団が 97% と、集団役が僅かに高いが、平均値の比較から個人役の自己評価が高いと言える。図 25－2 の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが 95%、他が 97% でやや他（リーダー以外）が高いが、平均値の比較においてはリーダー役が高い。

①全く当てはまらないとする否定の回答が、キャスト別では集団に 1 %、係の役割別では、他（リーダー以外）に 1 %見られる。

26　子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができるようになった



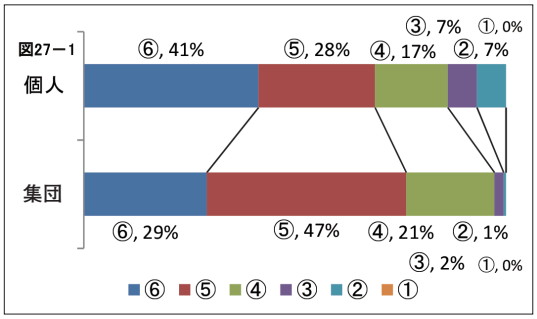


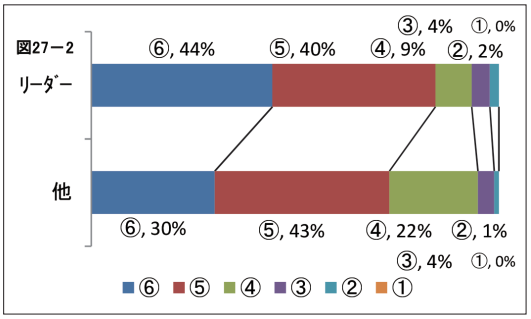
個人【平均：5.16　標準偏差：0.87】　　リーダー　　【平均：5.24　標準偏差：0.87】
集団【平均：4.93　標準偏差：0.95】　　他（リーダー以外）【平均：4.35　標準偏差：1.13】

26 の設問に対し、図 26 － 1 のキャスト別では肯定的な回答は個人が 83%、集団が 89% と、集団役が高いが、平均値の比較においては個人役が高い。図 26 － 2 の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが 96%、他が 94% でリーダーが僅かに高く、平均値の比較においてもリーダー役の自己評価が高い。

①全く当てはまらないとする否定の回答が、キャスト別では複数に 1%、係の役割別では、他（リーダー以外）に 1% 見られる。

27　挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方等、社会人としての基本的な事項が身についた



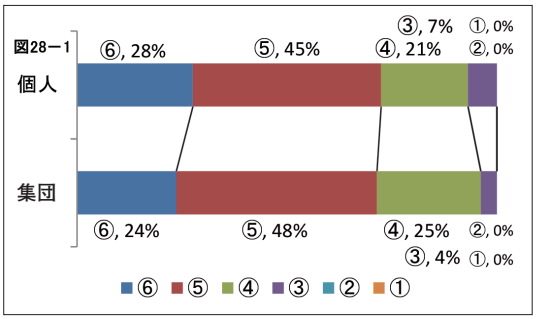


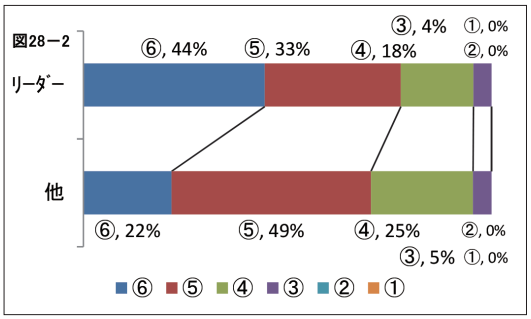
個人【平均：4.83　標準偏差：1.16】　　リーダー　　【平均：5.24　標準偏差：0.87】
集団【平均：4.44　標準偏差：1.07】　　他（リーダー以外）【平均：4.35　標準偏差：1.13】

27 の設問に対し、図 27－1 のキャスト別では肯定的な回答は個人が 86%、集団が 97% と、複数役が高いが、平均値の比較においては個人役が高い。図 27 － 2 の係りの役割別では肯定的な回答はリーダーが 93%、他が 95% で他（リーダー以外）がやや高いが、平均値の比較からリーダー役の自己評価が高いと言える。

①全く当てはまらないとする否定の回答は見られない。

28　自己の課題を認識し、その解決に向けて学び続ける姿勢を持てるようになった





個人【平均：4.83　標準偏差：1.16】　　リーダー　　【平均：5.24　標準偏差：0.87】
集団【平均：4.44　標準偏差：1.07】　　他（リーダー以外）【平均：4.35　標準偏差：1.13】

28 の設問に対し、図 28 － 1 のキャスト別では肯定的な回答は個人が 94%、集団が 97% と、集団役が高いが、平均値の比較においては個人役が高い。図 28 － 2 の係の役割別では肯定的な回答はリーダーが 95%、他が 96% で他（リーダー以外）が僅かに高いが、平均値の比較からリーダー役の自己評価が高いと言える。

①全く当てはまらないとする否定の回答は見られない。

分析結果

上述した調査結果を次のようにして分析を行った。

1　キャストにおける個人（一人）役と集団で構成する役の比較

1 － 1 肯定的な回答の割合及び平均値の比較

全体の回答結果をキャストにおける個人（一人）役と集団で構成する役に分け、肯定的な回答（⑥非常に当てはまる⑤当てはまる④やや当てはまるを合わせた数値）の数値（%）及び平均値を比較した。結果は次のとおりである。

（1）肯定的な回答の比較において高い値を示した項目

個人役【 6 項目】

［3、9、12、14、19、22］

集団役【19 項目】

［2、4、5、6、7、8、13、15、16、17、18、20、21、23、24、25、26、27、28］

同値　【 3 項目】

［1、10、11］

（2）平均値の比較において、高い値を示した項目

個人役【20 項目】

［1、3、4、5、7、9、10、11、12、13、14、15、16、17、19、20、25、26、27、28］

集団役【8項目】
［2、6、8、18、21、22、23、24］
（3）肯定的な回答・平均値共に個人（一人）役が高い項目【5項目】
［3、9、12、14、19］
（4）肯定的な回答・平均値共に集団（集団で構成する）役が高い項目【7項目】
［2、6、8、18、21、23、24］
（5）肯定的な回答に個人役と集団役の差はないが､平均値は個人役の方が高い項目【3項目】
［1、10、11］
（6）肯定的な回答は集団役が高いが、平均値は個人役が高い項目【12項目】
［4、5、7、13、15、16、17、20、25、26、27、28］
（7）肯定的な回答は個人役が高いが、平均値は集団役が高い項目【1項目】
［22］

1－2「全く当てはまらない」とする回答がみられた項目数の比較

評価段階の「全く当てはまらない」とする否定の回答が見られた項目に着目し、その数を比較した。結果は次のとおりである。

（1）個人役【10項目】
［1、2、3、4、8、9、13、18、21、22］
（2）集団役【23項目】
［1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16、18、19、22、23、24、25、26］

1－3「全く当てはまらない」とする回答の割合の比較

評価段階の「全く当てはまらない」とする否定の回答の割合（%）に着目し、その数値を比較した。結果は次のとおりである。

（1）個人役が高い【9項目】
［1、2、3、4、8、9、18、21、22］
（2）集団役が高い【14項目】
［5、6、7、10、11、12、14、15、16、19、23、24、25、26］
（3）個人役と集団役に差はない【5項目】※（　）は0%の項目
［13、(17)、(20)、(27)、(28)］

キャストにおける個人（一人）役と集団で構成する役において、1－1の（1）では、⑥非常に当てはまる、⑤当てはまる、④やや当てはまる、を合計した肯定的な回答の数値

(%) を比較した。高い数値を示した項目数は、個人役が 6 項目に対して集団役が 19 項目であった。次に 1 − 1 の (2) では平均値を比較した。高い数値を示した項目数は、個人役が 20 項目に対して集団役が 8 項目であった。1 − 1 の (3) から (7) の分析結果も踏まえ、集団で構成する役を演じた学生は 28 の設問に対して肯定的な回答の数値の比較から、量的な意味で肯定的に捉えて自己評価していることがわかる。一方、個人役を演じた学生は平均値の比較から、質的な意味で肯定的に捉えて自己評価していることがわかる。

また、1 − 2 及び 1 − 3 の分析結果から、学生は 28 の設問項目のうち、8 割強の 23 項目に対して数パーセントではあるが、「全く当てはまらない」の評価を選択しており、特に集団で構成する役の学生に多いことがわかった。

2　係活動におけるリーダーと他 (リーダー以外) の比較

2 − 1 肯定的な回答の割合及び平均値の比較

全体の回答結果を係活動のリーダーと他 (リーダー以外) に分け、肯定的な回答の数値 (%) 及び平均値を比較した。結果は次のとおりである。

(1) 肯定的な回答の比較において高い値を示した項目

リーダー【21 項目】

[1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、18、19、20、21、22、24]

他 (リーダー以外)【 6 項目】

[17、23、25、26、27、28]

同値【 1 項目】

[16]

(2) 平均値の比較において高い値を示した項目数

リーダー【28 項目】

[1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23、24、25、26、27、28]

他 (リーダー以外)【 0 項目】

(3) 肯定的な回答・平均値共にリーダーが高い項目【21 項目】

[1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、18、19、20 、21、22、24]

(4) 肯定的な回答・平均値共に他 (リーダー以外) が高い項目【 0 項目】

(5) 肯定的な回答はリーダーと他 (リーダー以外) に差はないが、平均値はリーダーが高い項目【 1 項目】

[16]

(6) 肯定的な回答は他 (リーダー以外) が高いが、平均値はリーダーが高い項目【 6 項目】

[17、23、25、26、27、28]

（7）肯定的な回答はリーダーが高いが､平均値は他（リーダー以外）が高い項目【0項目】

2－2「全く当てはまらない」とする回答がみられた項目数の比較

評価段階の「全く当てはまらない」とする否定の回答が見られた項目に着目し、その数を比較した。結果は次のとおりである。

（1）リーダー【3項目】
［13、23、26］

（2）他（リーダー以外）【24項目】
［1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16、18、19、21、22、23、24、25、26］

2－3「全く当てはまらない」とする回答の割合の比較

評価段階の「全く当てはまらない」とする否定の回答の割合（%）に着目し、その数値を比較した。結果は次のとおりである。

（1）リーダーが高い項目【3項目】
［13、23、26］

（2）他（リーダー以外）が高い項目【21項目】
［1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、14、15、16、18、19、21、22、24、25］

（3）リーダーと他（リーダー以外）に差はない項目【4項目】※（　）は0%の項目
［(17)、(20)、(27)、(28)］

係活動におけるリーダーと他（リーダー以外）の比較において、2－1・2・3の分析結果から､リーダーの役割に就いた学生は28の設問項目に対して肯定的な回答の数値(%)及び平均値の高さから、肯定的に捉え、評価していることがわかる。こうした結果はリーダーとしての役割を自覚し制作過程において主体的に関わった結果であり、リーダーを決定する時点で役目を担える人物がその役に就いた可能性は大きい。

2－2及び2－3の分析結果から、学生は28の設問項目のうち、7割強の21項目に対して数パーセントではあるが､「全く当てはまらない」の評価段階を選択し、評価しており、特に他（リーダー以外）の学生に非常に多いことがわかった。

3　総括と課題

毎年、キャストの選定方法はオーディションシステムにより行われている。審査員は、学生のミュージカル制作の全体責任者である総監督と授業担当教員で構成されている。事前に、キャスト別の特徴や歌、セリフ、ダンス、動き等の具体的な審査内容は総監督から

提示があり、役作りのための一定期間を設け、オーディションは行われている。キャストは個人（一人）役と集団で構成する役に大別される。オーディションでは個人（一人）役の希望者が多いため、倍率が高く、希望の役を手にする学生は数人である。オーディションで落とされ、希望した役につけなかった学生はオーディションでの審査内容や第２・第３希望のキャストを考慮して、主に集団で構成する役に配置される。一方、集団で構成する役を第１希望にしている学生は若干の人数調整等を行うことで、ほぼ希望した役に就くことができている。

こうした経緯から、オーディションという壁を突破し、希望する個人（一人）役を手にした学生は集団で構成する役と比較して、ミュージカルの制作に取り組む意欲は高いとみていて、調査結果に肯定的な回答の数値（%）及び平均値共に個人（一人）役に優位な結果が得られるのではないかと推測していた。だが、分析結果から集団で構成する役を演じた学生は 28 の設問項目に対して、肯定的な回答の数値（%）の比較から量的な意味で肯定的に捉えて自己評価していることがわかった。一方、個人（一人）役で演じた学生は平均値から質的な意味合いで肯定的に捉え評価していることがわかった。

全学生が所属する係の決定方法は、各係の必要人数を定め、希望を取り、話し合いの中で調整している。また、係のリーダーの選出方法は、自薦・他薦、くじ引き等で決定している。制作全体のまとめ役をする総監督や係として専属で活動しなければならない音響係、年度によっては舞台に上がらず係活動に専念する学生もいる。総監督を中心に 11 種類の係の長であるリーダーの存在、その役割は大きい。

係活動におけるリーダーと他（リーダー以外）との比較においても、28 項目の自己評価分析結果にも表れていた。リーダーの役割に就いた学生は肯定的な回答の数値（%）及び平均値の高さから、肯定的に捉え、自己評価していることがわかる。こうした結果はリーダーとしての役割を自覚し制作過程において主体的に関わった結果であり、リーダーに就く時点で役割を担える人物であった可能性も考えられるが、リーダーという役割がその学生を育てたとも言える。

また、学生全体の回答から設問項目の８割強に対して数パーセントではあるが、「全く当てはまらない」の評価段階を選択し、自己評価している。キャスト別では集団で構成する役、係別ではリーダー以外の学生に多いことが明らかとなった。この点が授業改善の大きな課題といえる。

また、今回実施した３種類のアンケート集計結果から、表現活動指導法という授業は、演技力や表現力だけではなく、将来保育者となる時に必要な非認知能力の育成につながるものであることを再確認した。

今後の課題は今回の分析結果を踏まえ、自由記述及び表現活動指導法の課題レポート内容を分析し、授業の方向性を探っていきたい。

参考文献

・中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて
～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」（2012）
・寺川悦男「中短ミュージカル 30 周年史」暁星論叢第 66 号（2016）
・村木薫･坂内寿子「表現活動指導法の授業アンケート調査結果における考察（1）」（2017）